

野市町埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集

KAMIOKA
上岡遺跡

—上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書—

2005. 3

高知県野市町教育委員会

K A M I O K A

上岡遺跡

－上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書－



2005. 3

高知県野市町教育委員会

序

野市町は、太陽、水、緑に恵まれた自然条件の中にあり、早くから先人が歴史を造ってまいりました。近年は人口が増加し、それに伴う開発も増加し続けております。開発と文化が共存し、住みやすく、心も豊かになれる町として発展していくことを願い文化財行政を進めております。

今回の調査では、弥生時代前期の土器や、後期中葉の竪穴住居跡など多数の遺構や遺物を検出いたしました。また、古代の掘立柱建物跡も検出しております。

これまでに行ってきた発掘調査の成果と併せて、上岡地区周辺をはじめとする物部川下流域の歴史を解明するためにも貴重な調査となりました。

この上岡遺跡報告書が、学術的に多くの研究者に活用されることはもちろんのこと、学校教育や、生涯学習、或いは多くの町民の方々に広く活用していただきたいと思っております。

また、上岡遺跡の発掘調査が物部川下流域に広がる野市町の歴史を紐解く契機となり、1人でも多くの方が埋蔵文化財に関心を持たれて、より一層の文化振興の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、上岡遺跡調査にあたって、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センターの調査員ならびに作業員、調査にご協力頂いた地元関係者のみなさまのお陰を持ちまして、上岡遺跡報告書を刊行する運びとなりましたこと、心より御礼申し上げます。

今後も更なる野市町の文化財行政に対するご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年3月

高知県野市町教育長 山 中 國 保

例言

- 1 本書は、野市町教育委員会が上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴い実施した、平成8年度緊急試掘調査、平成11年度緊急発掘調査報告書である。
- 2 上岡遺跡は、高知県香美郡野市町上岡2712番地他に所在する。
- 3 調査期間
 - (1) 平成8年度 試掘調査
平成8年12月16日 ～ 平成9年2月25日
 - (2) 平成11年度 発掘調査
平成11年12月1日 ～ 平成12年3月22日
- 4 調査面積
 - (1) 平成8年度 試掘調査
調査対象面積 1260㎡
調査面積 104㎡
 - (2) 平成11年度 発掘調査
調査対象面積 1260㎡
調査面積 1000㎡
- 5 調査体制
 - (1) 平成8年度 試掘調査
小松 大洋（野市町教育委員会社会教育課 社会教育主事）
更谷 大介（野市町教育委員会社会教育課 臨時職員）
 - (2) 平成11年度 発掘調査
木下 洋一（野市町教育委員会生涯学習課 班 長）
更谷 大介（野市町教育委員会生涯学習課 臨時職員）
- 6 本書の編集は更谷大介・溝渕真紀が行った。
- 7 遺構等の名称については、SB（掘立柱建物跡）、ST（竪穴住居跡及び竪穴状遺構）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びビット状遺構）等の略号を使用する。

- 8 発掘調査に関しては、地元野市町上岡をはじめとした町内にお住まいの方々の全面的なご理解とご協力、ならびに温かいご支援を賜り、調査を進めることができました。記して謝意を表します。
- 9 発掘調査及び報告書作成に際しては、出原恵三、池澤俊幸、久家隆芳（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター）にご教示、ご指導頂いた。記して謝意を表します。（敬称略）
- 10 発掘作業員に際しては、下記の方々の協力を得た。記して謝意を表します。
貞岡重道・佐野宣重・吉川徳子・吉川誠喜・大黒貞之・町田恵子・森田彩子（敬称略）
- 11 重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻しについては、平成8年度に共運工業の森岡和信、平成11年度に清藤勝秀の便宜・協力を得た。記して謝意を表します。（敬称略）
- 12 遺物整理、報告書作成に際しては、下記の方々の協力を得た。記して謝意を表します。
岩崎佐枝・岩貞泰代・岩本須美子・大原喜子・尾崎富貴・川久保香・浜田雅代
東村知子・松木富子・森 綾子・矢野 雅・山中美代子・山本由里（敬称略）
- 13 出土遺物については、「96-34NK」（平成8年度 試掘調査）「99-NK」（平成11年度発掘調査）と註記し、関連図面、写真とともに野市町教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章 遺跡周辺の地理・歴史的環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
第Ⅱ章 調査の経過及び方法	5
1. 調査の経過	5
2. 調査の方法	5
第Ⅲ章 調査の成果	6
1. 試掘調査	6
2. 試掘トレンチ概要	6
3. 本調査	17
(1) 調査区の概要と基本層準	17
(2) 弥生時代の検出遺構と遺物	24
(3) 古代の検出遺構と遺物	46
(4) その他の検出遺構と遺物	51
(5) 包含層出土遺物	56
第Ⅳ章 まとめ	64

挿図目次

- Fig. 1 上岡遺跡の位置と周辺の遺跡
Fig. 2 調査区位置図
Fig. 3 試掘トレンチ位置図及びTR1～TR4セクション
Fig. 4 TR5～TR12セクション
Fig. 5 TR1出土遺物(1)
Fig. 6 TR1出土遺物(2)
Fig. 7 TR1出土遺物(3)
Fig. 8 TR1出土遺物(4)
Fig. 9 TR1出土遺物(5)
Fig. 10 TR1(66～71), TR7(72～83)出土遺物
Fig. 11 TR7(84～92・94), TR8・10(93), TR8(96・97), TR9(95)出土遺物
Fig. 12 遺構全体図
Fig. 13 東壁, 北壁(c-c'), 北壁(d-d')セクション
Fig. 14 北壁(b-b'), 西壁セクション
Fig. 15 ST1平面・セクション及び出土遺物
Fig. 16 ST1出土遺物
Fig. 17 ST2平面・セクション及び出土遺物
Fig. 18 ST2出土遺物
Fig. 19 SK3, 11平面・セクション及びSK11出土遺物
Fig. 20 SK12, 13平面・セクション及びSK12出土遺物
Fig. 21 SK15, 16, 18, 20～22, 26, 28平面・エレベーション及びSK21出土遺物
Fig. 22 SK30, 32, SD1平面・エレベーション及びSD1出土遺物
Fig. 23 SD2出土遺物
Fig. 24 SD5, 8平面・エレベーション及びSD5出土遺物
Fig. 25 SX1平面・エレベーション及び出土遺物(1)
Fig. 26 SX1出土遺物(2)
Fig. 27 SX1出土遺物(3)
Fig. 28 P21平面・エレベーション及び出土遺物
Fig. 29 P50平面・エレベーション及び出土遺物
Fig. 30 P169(219), P177(214), P217(209), P221(207・216), P225(210・212),
P234(208・211・213・215), P267(217), P290(218)出土遺物
Fig. 31 集石2, 3及び集石2出土遺物
Fig. 32 集石3出土遺物

- Fig. 33 SB 1 平面・エレベーション
Fig. 34 SB 2, P256平面・エレベーション及びP256出土遺物
Fig. 35 SK 1, 2, 14平面・エレベーション及びSK14出土遺物
Fig. 36 SK 4～8, 17平面・セクション・エレベーション及びSD 4 (240), SX 3 (241)出土遺物
Fig. 37 SK 9, 10, 23～25, 29, 33, 34平面・エレベーション
Fig. 38 SD 3, 4 平面・エレベーション
Fig. 39 SD 9 平面・エレベーション
Fig. 40 包含層出土遺物 (1)
Fig. 41 包含層出土遺物 (2)
Fig. 42 包含層出土遺物 (3)
Fig. 43 包含層出土遺物 (4)
Fig. 44 包含層出土遺物 (5)

表目次

表1 遺跡名一覧

表2 ST 1 ビット計測表

表3 ST 2 ビット計測表

写真図版目次

- PL. 1 調査区全景, TR 1 西壁
- PL. 2 TR 1 遺物検出状況, TR 1 遺物検出状況
- PL. 3 TR 3 南壁, TR 4 西壁
- PL. 4 TR 7 遺物検出状況, TR 8 南壁
- PL. 5 TR 9 遺構検出状況, TR 9 遺物検出状況 (SK12)
- PL. 6 本調査北壁, 本調査西壁
- PL. 7 ST 1 検出状況, ST 1 完掘状況
- PL. 8 ST 2 検出状況, ST 2 完掘状況
- PL. 9 SD 2 検出状況, SD 2 完掘状況
- PL. 10 SX 1 掘削状況, SX 1 完掘状況
- PL. 11 調査区西側遺構全景, 集石 3 遺構検出状況
- PL. 12 調査区西側遺構 (SB 2), SB 2・P256 遺物出土状況
- PL. 13 調査区北側遺構全景 (東より撮影), 調査区北側遺構全景 (西より撮影)
- PL. 14 調査区南東側遺構全景, 集石 2 検出状況
- PL. 15 P50 遺物検出状況, P21 遺物検出状況
- PL. 16 ST 2 床面遺物検出状況, 調査風景
- PL. 17 SK12, TR 1 出土遺物
- PL. 18 ST 2, SK12, P21, P50 出土遺物
- PL. 19 SK13, SX 1, TR 1, 包含層出土遺物
- PL. 20 SK12, TR 1, SD 2, SX 1, P234, 包含層出土遺物
- PL. 21 TR 1, 包含層出土遺物
- PL. 22 TR 1, 包含層出土遺物
- PL. 23 TR 1, TR 8, 包含層出土遺物
- PL. 24 SB 2, P256, P50, TR 1, TR 7, TR 8, TR 8-10, TR 9, 包含層出土遺物
- PL. 25 ST 2, SX 1, 包含層出土遺物

第1章 遺跡周辺の地理・歴史的環境

1. 地理的環境

上岡遺跡のある野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にあり、南北約6km、東西約4km、面積23.15km²、人口17,000人を超える町である。西は物部川をほぼ境として南国市、東は香我美町と隣接し、北は烏ヶ森山系により土佐山田町と分けられる。南は赤岡町、吉川村の2町村と境を接し、野市町南端より約1.3km南で土佐湾にのぞむ。

北部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を活かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には北東部に閑楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する、古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この閑楽山系は、秋葉山系と烏ヶ森山系の2つからなり野市町の約3分の1強の面積をしめる。

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある閑楽山（標高368.2m）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9m）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ヶ森山系があり同じく、南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地性の氾濫源であり、現在の市街地をのせ、海拔高度約40～10mと北から南へ高さを減じている。また、台地の西端部分は5mほどの段丘崖となって沖積平地となっている。上岡遺跡は、この沖積平地上にあり海拔11m前後を測る。

これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさざぎられた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用によりつまっていき、大きな自然堤防が形成され現在の流路になったと考えられる。

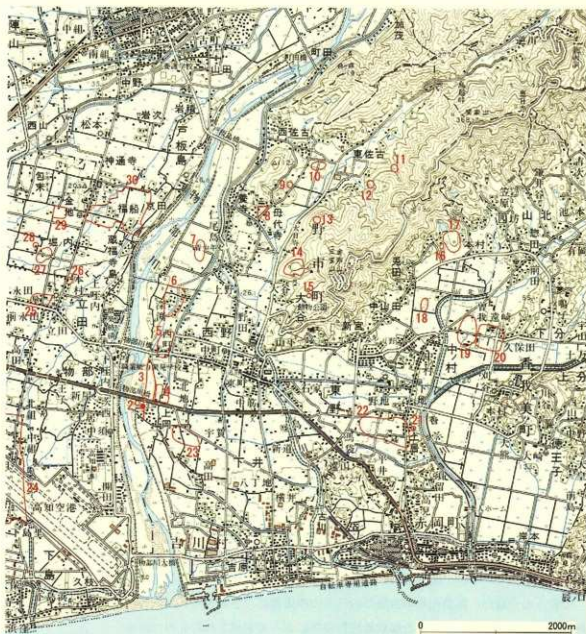


表1 遺跡名一覧

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	上岡遺跡	弥生・古代	11	鬼ヶ岩屋敷穴遺跡	弥生	21	宝鏡寺跡	中世
2	上岡北遺跡	弥生・近世	12	アゴダン白岩遺跡	平安・中世	22	東野土居遺跡	古墳～平安
3	下ノ坪遺跡	弥生～奈良	13	溝湖山古墳	古墳	23	高田遺跡	平安
4	北池遺跡	弥生～奈良	14	大谷城跡	中世	24	田村遺跡群	縄文～近世
5	西野遺跡群	弥生・古墳・平安	15	大谷古墳	古墳	25	寺ノ内遺跡	弥生～中世
6	深淵遺跡	弥生～近世	16	大崎山古墳	古墳	26	立田土居城跡	中世
7	深淵北遺跡	弥生～中世	17	本村遺跡	弥生	27	古流曾遺跡	古墳～平安
8	8代寺上層遺跡群	弥生・平安～中世	18	鬼田跡々本遺跡	弥生～古墳	28	石神遺跡	弥生～古墳
9	亀山遺跡	平安・中世	19	曾我遺跡	弥生～中世	29	芝田遺跡	古墳～中世
10	東佐古遺跡	弥生	20	下分速崎遺跡	弥生	30	岩村遺跡群	弥生～中世

Fig. 1 上岡遺跡の位置と周辺の遺跡 (S : 1/5000)

2. 歴史的環境

上岡遺跡のある野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れており下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、田村遺跡は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られており、上岡遺跡から西へ約2kmの地点に位置している。

また、その北部の上流右岸の土佐山田町にはひびのき遺跡^①（弥生時代～古墳時代前期）、その対岸には林田遺跡^②（弥生時代～室町時代）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代初期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡^③や十萬遺跡^④がある。

町内にも数多くの遺跡があり、弥生時代には集落数が飛躍的に増加し町内全域に分布する。特に物部川流域は増加が著しく、上岡遺跡をはじめ、国道55号線を挟んですぐ北側に、多くのガラス製品や鉄器を所持していた集落として注目が集まっている下ノ坪遺跡^⑤（弥生時代～奈良時代）がある。

またその北側には西野遺跡群（弥生時代・古墳時代・平安時代）・深淵遺跡^⑥（弥生時代～近世）・深淵北遺跡（弥生時代～中世）と、物部川左岸の河岸段丘部に広く分布している。

東部には先に述べた香我美町の下分遠崎遺跡と同一遺跡と考えられる曾我遺跡^⑦が香宗川流域に広がっており、その北側閑楽山地の麓にはガラス製の勾玉等が出土した、弥生時代中期の微高地性集落の性格をもつ本村遺跡^⑧がある。閑楽山地には弥生時代中期末の笹ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獣骨、魚骨などが出土した弥生時代後期末の鬼ヶ岩屋洞穴遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も閑楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝淵山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存しており、横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも二次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳^⑨をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、町内北部の佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在等により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡では、全国的にも出土例の少ない四仙騎獣八稜鏡が出土したほか、硯・丸軋などが出土し、官衙の性格をもつ遺跡である下ノ坪遺跡がある。そこから北約1kmに弥生時代からの複合遺跡で、二彩陶器、緑釉陶器、墨書土器、硯、鉈尾等が出土した深淵遺跡がある。深淵遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面硯や風字硯も発見され、官衙の性格をもつ遺跡であったと考えられる。また佐古地区の龜山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかっており、このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持ち重要な地であったことがうかがえる。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ヶ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺

跡に歴代の墓と観音堂がたっている。また、戦国時代の城では佐古地区に前ノ山城、また土佐山田町との境に烏ヶ森城がある。

- (1) 岡本健児・廣田典夫「高知県ひびのき遺跡」 土佐山田町教育委員会 1997年
- (2) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏「林田遺跡」 土佐山田町教育委員会 1985年
- (3) 高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1987年
高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1989年
- (4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遺跡発掘調査報告書」 香我美町教育委員会 1988年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「深河遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (6) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし「下ノ坪遺跡Ⅰ」 野市町教育委員会 1997年
出原恵三・池澤俊幸・小松大洋「下ノ坪遺跡Ⅱ」 野市町教育委員会 1998年
- (7) 高橋啓明・吉原達生「曾我遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (8) 坂本憲昭「本村遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1993年
- (9) 山本哲也「大谷古墳」(財)高知県文化財団 1991年

第Ⅱ章 調査の経過及び方法

1. 調査の経過

野市町上岡遺跡は、「上岡地区農業集落排水緊急整備事業」に伴う緊急発掘調査として、平成8年度に試掘調査を行い、平成11年度に発掘調査を行ったものである。

試掘調査は平成8年12月16日から実施し、処理場施工予定地に、 2×4 mを基本とした試掘トレンチを12ヶ所設定した。調査の結果、調査対象地全体に良好な遺物包含層が遺存し、遺構もわずかながら検出した。調査区の全域で遺物は出土しているが、特に調査対象地南西部のトレンチ1では、弥生時代前期の土器が1 m以上積み重なるように出土した。

これを受けて関係部局が検討した結果、事業区域内の埋蔵文化財の記録保存を目的に発掘調査に望んだ。

しかし、処理場建設に地元の方々話し合いができておらず発掘調査も中断された。

平成11年12月1日、地元の方々のご理解を得て発掘調査を再開した。遺跡に影響を及ぼす建物と永久構造物となる通路部分を、埋蔵文化財の記録保存を行うことを目的として調査を実施し、弥生時代の竪穴住居跡や古代の掘立柱建物跡、多数の遺構や遺物を検出した。

平成12年3月22日に機材等を撤収し、発掘調査を終了した。

2. 調査の方法

調査の手順としては、耕作土、旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進めた。

本遺跡は土を搬出する場所がないために、調査対象地をⅠ～Ⅳ区に分け、土を移動させながらの調査となったが本報告書では一括して扱う。

遺構の実測については、任意に設定した座標軸に基づいて、4 m方眼をかけ、グリッドNoを付して、地点の記録及び実測を行った。平面実測及び土層断面図については、20分の1を基本に、適宜任意の縮尺を用いた。

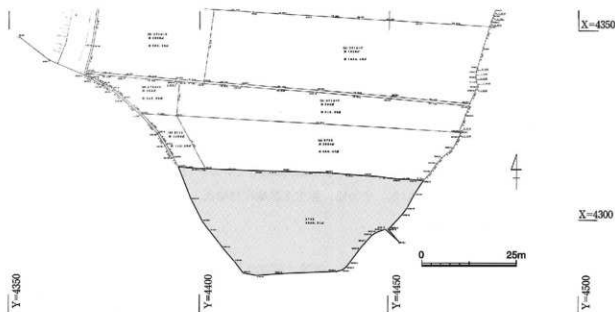


Fig. 2 調査区位置図 (S : 1/1000)

第三章 調査の成果

1. 試掘調査

(1) 基本層準

試掘調査時の基本層準であるが、本調査の1～9層までは同じであるが、10層から本調査では2層多く分層している。試掘調査時の包含層(11層)は、本調査では13層となる。

- 1層：表土
- 2層：明黄褐色シルト質土
- 3層：淡灰色シルト質土(黄褐色シルト質土が混じる)
- 4層：灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
- 5層：灰茶褐色シルト質土
- 6層：灰褐色シルト質土(濃茶色シルト質土が混じる)
- 7層：淡灰色粘質土
- 8層：黄茶褐色シルト質土
- 9層：濃灰色シルト質土
- 10層：暗黄褐色シルト質土(赤土が混じる)
- 11層：濃灰黒色粘質土
- 12層：黄褐色シルト質土
- 13層：暗灰茶砂質土
- 14層：黄褐色シルト質土

2. 試掘トレンチ概要

(1) TR1 (fig. 3・5～10)

調査対象地南西部に位置し、南壁に沿うように設定をしたトレンチである。遺構は確認できなかったが、包含層(11層)に多量の遺物が含まれていた。その下12層から下には、弥生時代前期の土器が1m以上積み重なるように出土している。

出土遺物は、壺(2・3・9～10・13～21)、壺頸部(4・8・12)、壺胴部(22・23)、壺底部(56～62・65)、甕(1・5～7・24～50・63)、甕底部(51～54・64)、鉢(66・67)、蓋(68～71)、石鏃(69)が図示できた。66は被熱赤変している。68は外面が被熱している。71は内外面が被熱赤変している。20・23・31は赤彩が施されている。その他、弥生土器細片7583点、石製品16点が出土している。

(2) TR2 (Fig. 3)

TR1の東側に設定したトレンチである。遺構は確認できなかった。9層より弥生時代前期末・後期の土器細片が77点、11・12層より弥生時代前期末の土器細片514点が出土している。図示できる遺物はない。

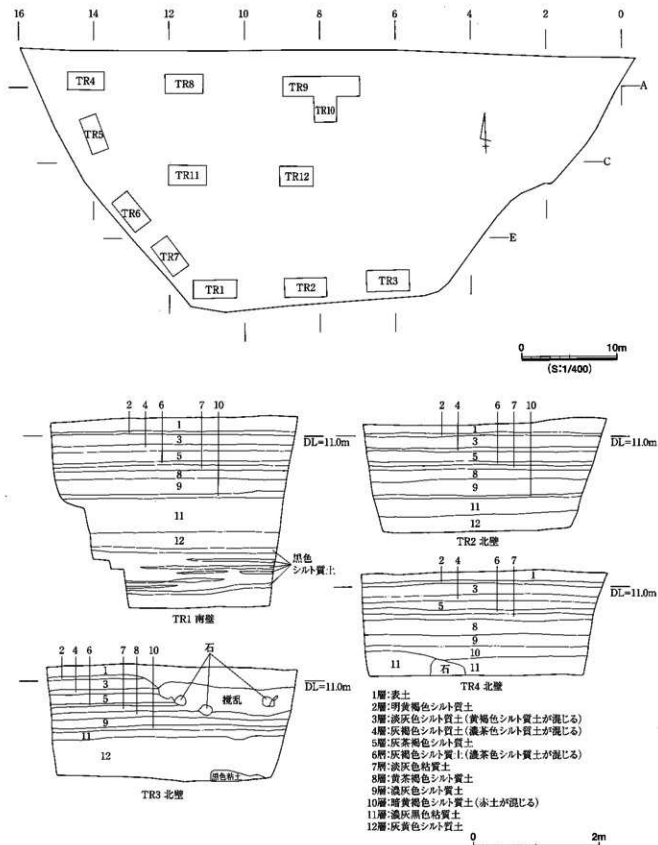


Fig. 3 試掘トレンチ位置図及びTR1～TR4セクション

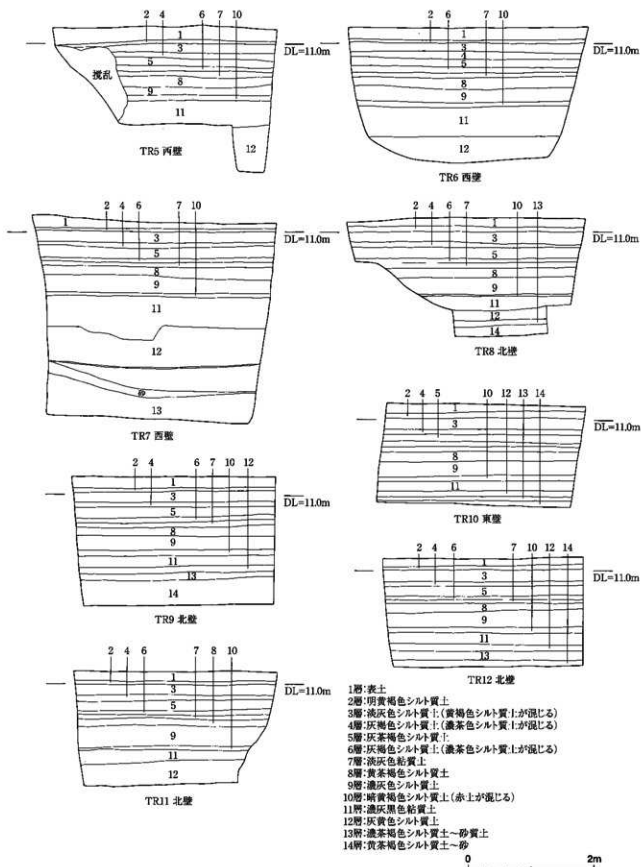


Fig. 4 TR5～TR12セクション

(3) TR 3 (fig. 3)

TR 2の東側に設定したトレンチである。遺構は認められなかった。近世と思われる攪乱より弥生土器細片10点と須恵器細片1点が出土し、図示できる遺物はない。

(4) TR 4 (fig. 3)

調査対象地西端に位置する。3層に須恵器壺細片1点が出土するが、遺構は確認できなかった。9層より弥生土器細片4点、須恵器細片1点、土師質土器細片10点が出土した。10層より下に人頭大の山石が数個あり、上岡山からの落下と思われる。図示できる遺物はない。

(5) TR 5 (fig. 4)

TR 4の南、上岡山裾野部に沿うように設定をしたトレンチである。3・4層に井戸らしきものがあり、近世陶磁器や瓦の破片が出土しているが、全容は不明である。8層より中世に属する備前すり鉢細片、10層より弥生土器細片4点、12層より弥生土器細片10点や近世陶磁器細片3点出土している。近世の攪乱も認められたが、遺構は確認できなかった。図示できる遺物はない。

(6) TR 6 (fig. 4)

TR 5の南側に設定したトレンチである。遺構は確認できなかったが、9層から弥生土器細片7点、土錘1点が出土している。図示できる遺物はない。

(7) TR 7 (fig. 4・10・11)

TR 1の北側、上岡山裾野部に沿うように設定したトレンチである。TR 1との関連で遺物が集中して出土する。

出土遺物は、壺(74・75・81・89)、壺底部(73・90)、甕(72・76~80・82~88)、甕底部(91・92)、坏(94)が図示できた。その他、弥生土器細片1710点、須恵器細片1点、石製品1点、陶磁器1点が出土している。

(8) TR 8 (fig. 4・11)

TR 4の東側に設定をしたトレンチである。昭和の攪乱が認められた。11層下にピットがセクションにより確認され、中に遺物も認められた。

出土遺物は、坏(96)、小坏(93)、白磁Ⅳ類(97)が図示できた。その他、弥生土器細片2点、須恵器5点、土師質土器69点が出土している。

(9) TR 9 (fig. 4・11)

調査対象地、中央付近北側に設定をしたトレンチである。12層に弥生時代の土坑が検出する。この土坑SK12については本調査の項で扱う。

出土遺物は、坏(95)が図示できた。その他、弥生土器細片173点が出土している。

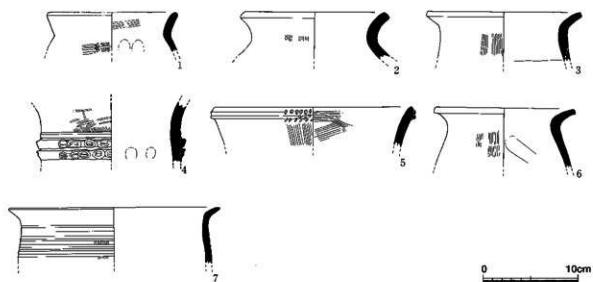


Fig. 5 TR1 出土遺物 (1)

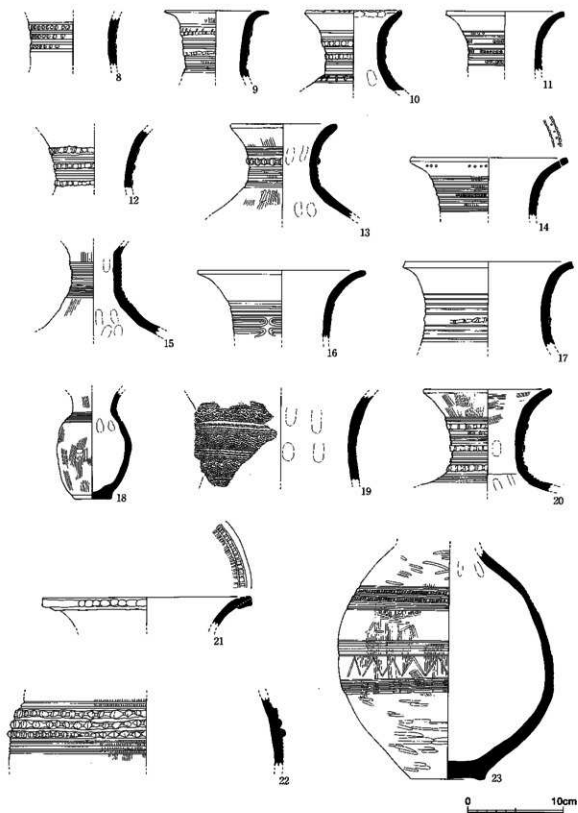


Fig. 6 TR1 出土遺物 (2)

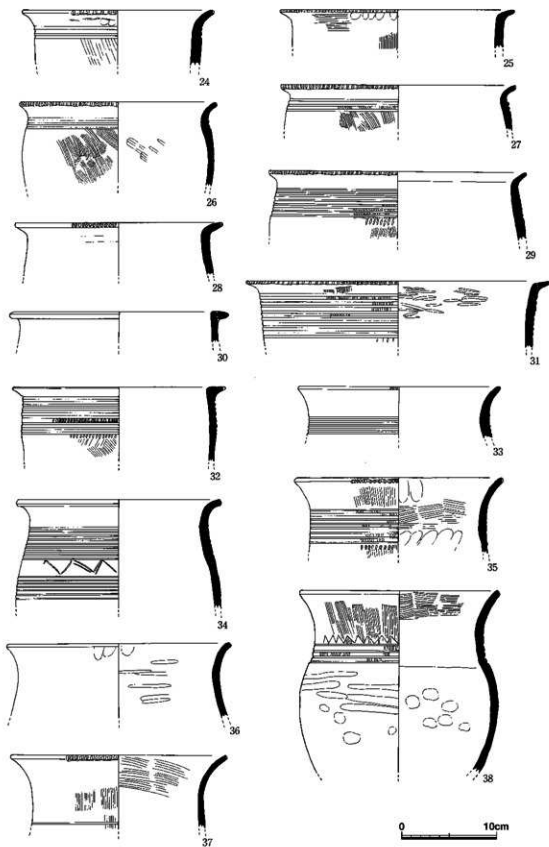


Fig. 7 TR1 出土遺物 (3)

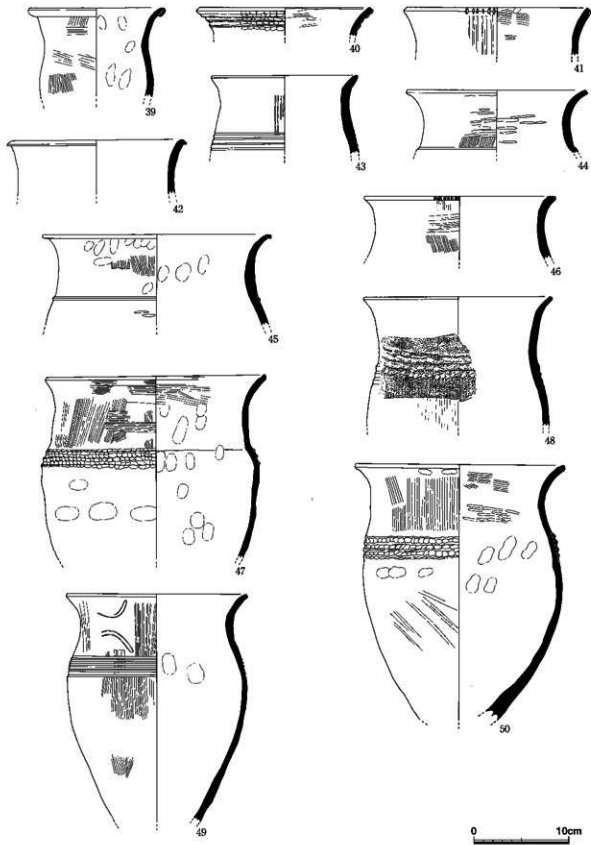


Fig. 8 TR1 出土遺物 (4)

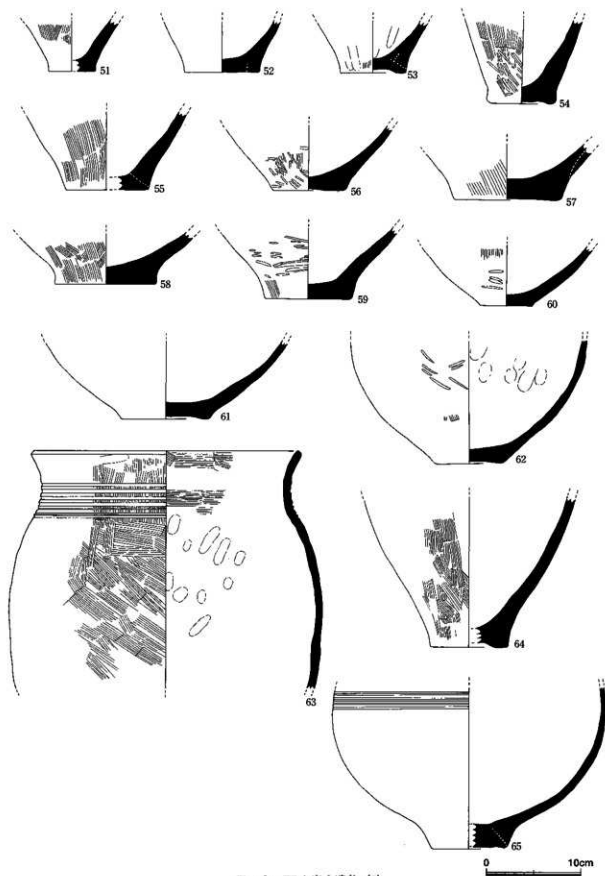


Fig. 9 TR 1 出土遺物 (5)

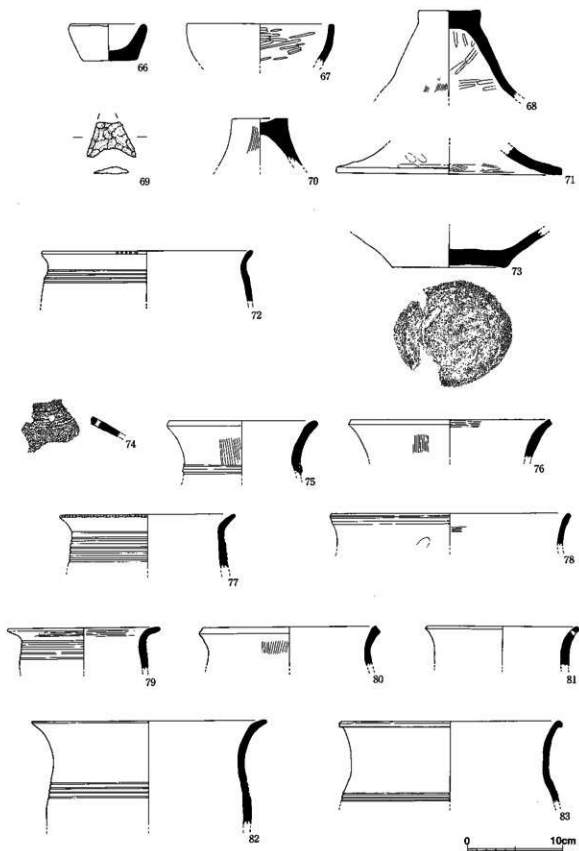


Fig.10 TR 1 (66~71), TR 7 (72~83) 出土遺物

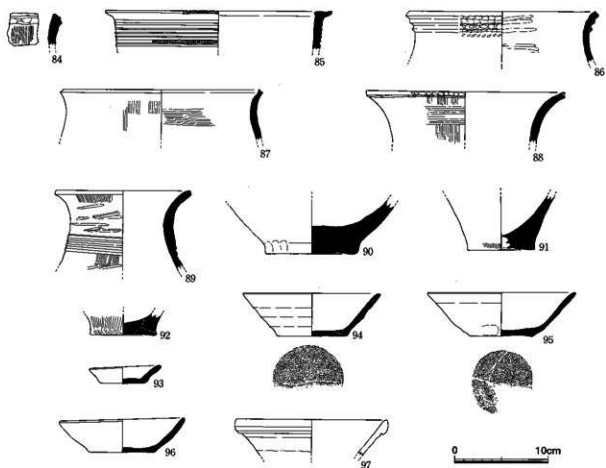


Fig.11 TR7 (84~92・94), TR8・10 (93), TR8 (96・97), TR9 (95) 出土遺物

(10) TR10 (fig. 4・11)

TR9に接する、南北方向に長いトレンチである。12層より弥生土器細片56点、須恵器細片3点、土師質土器細片7点と遺構が検出する。遺構SK13については本調査の項で扱う。

出土遺物は、小坏(93)が図示できた。その他、弥生土器細片81点、須恵器細片7点、土師質土器細片9点、近世陶磁器細片8点が出土している。

(11) TR11 (fig. 4)

調査対象地、中央西よりに設定をしたトレンチである。12層にTR8のピットと同じ埋土の遺構が検出する。10層より弥生土器細片11点が出土している。図示できる遺物はない。

(12) TR12 (fig. 4)

調査対象地、ほぼ中央に設定したトレンチである。TR11と同様に遺構がひとつ検出する。11・12層より弥生土器細片217点が出土し、図示できる遺物はない。

3. 本調査

(1) 調査区の概要と基本層準

①調査区の概要

本調査対象地は半楕円形を呈し、東西約65m、南北約27m、面積1260㎡を測る。北部は隣接する畑に接し、南部は一段高い畑がありコンクリート壁で隔てられている。東側は水路を挟んで道路に接し、その東側には民家が建ち並ぶ。西側は上岡山の裾野部が境となっている。

調査区内には、任意の杭 (A-1) を設定し、北から南に4m毎、東西に4m毎に杭を設定した。その中で先にも述べたとおり、排土を置く場所がなかったため、調査対象地をⅠ～Ⅳ区に分割して調査を行ったが本項では一括して扱う。

②基本層

東壁 (fig. 13)

1層：表土	a層：淡橙色シルト質土
2層：明黄褐色シルト質土	b層：淡橙色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土 (黄褐色シルト質土が混じる)	c層：濃黒色シルト質土
4層：灰褐色シルト質土 (濃茶色シルト質土が混じる)	
5層：灰茶褐色シルト質土	
6層：灰褐色シルト質土 (濃茶色シルト質土が混じる)	
7層：淡灰色粘質土	
8層：黄茶褐色シルト質土	
9層：濃灰色シルト質土 (1～10cm大の礫を少量含む)	
10層：淡橙色シルト質土	
11層：灰黄色シルト質土	
12層：灰色砂 (1～5cm大の礫が混じる)	
13層：淡橙色シルト質土	
14層：灰褐色砂	
15層：灰茶褐色砂質土	

北壁 b-b' (fig. 13)

1層：表土
2層：明黄褐色シルト質土
3層：淡灰色シルト質土 (黄褐色シルト質土が混じる)
4層：灰褐色シルト質土 (濃茶色シルト質土が混じる)
5層：灰茶褐色シルト質土
6層：灰褐色シルト質土 (濃茶色シルト質土が混じる)
7層：淡灰色粘質土
8層：黄茶褐色シルト質土
9層：濃灰色シルト質土

- 10層：淡橙色シルト質土
- 11層：灰黄色シルト質土
- 12層：濃橙色シルト質土
- 13層：濃茶黒褐色粘質土
- 14層：灰黄色シルト質土

北壁c-c' (fig. 13)

- 1層：表土
- 2層：明黄褐色シルト質土
- 3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
- 4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 5層：灰茶褐色シルト質土
- 6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 7層：淡灰色粘質土
- 8層：黄茶褐色シルト質土
- 9層：濃灰色シルト質土（1～5cm大の礫を少量含む）
- 10層：淡橙色シルト質土（赤土が混じる）
- 11層：灰黄色シルト質土
- 12層：濃橙色シルト質土
- 13-1層：濃茶黒褐色粘質土
- 13-2層：濃茶褐色シルト質土
- 14層：灰黄色シルト質土

北壁d-d' (fig. 13)

- 1層：表土
- 2層：明黄褐色シルト質土
- 3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
- 4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 5層：灰茶褐色シルト質土
- 6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 7層：淡灰色粘質土
- 8層：黄茶褐色シルト質土
- 9層：濃灰色シルト質土（小礫が混じる）
- 10層：橙色シルト質土
- 11層：灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
- 12層：灰黄色シルト質土
- 13-1層：濃茶褐色シルト質土～粘質土
- 13-2層：濃黒褐色粘質土
- 14層：灰黄色シルト質土

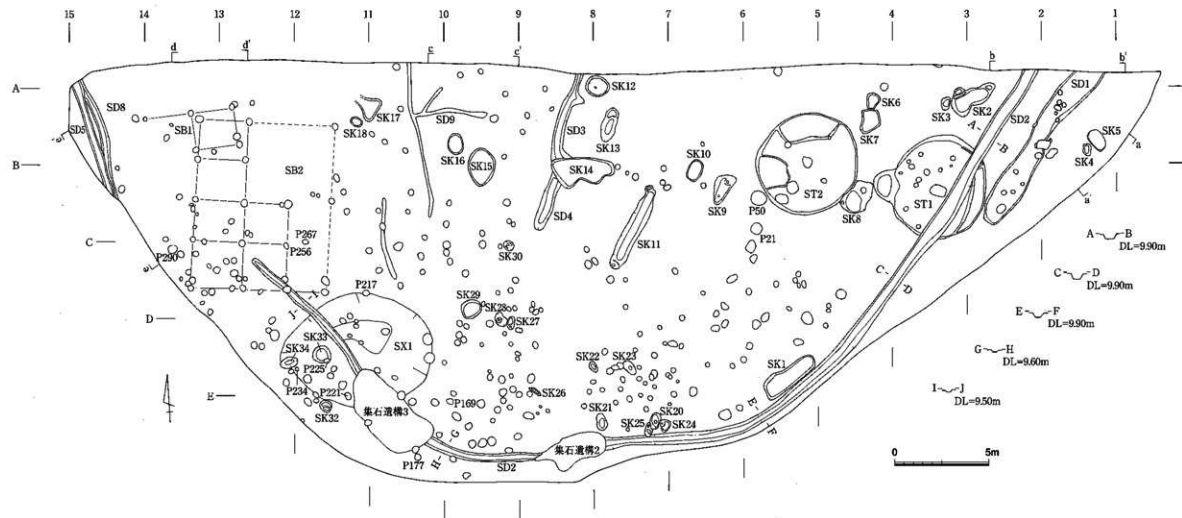


Fig.12 遺構全体図 (S : 1/200)

IV区西壁 (fig. 14)

- 1層：表土
- 2層：明黄褐色シルト質土
- 3層：淡灰色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）
- 4層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 5層：灰茶褐色シルト質土
- 6層：灰褐色シルト質土（濃茶色シルト質土が混じる）
- 7層：淡灰色粘質土
- 8層：黄茶褐色シルト質土
- 9層：濃灰色シルト質土
- 10層：濃橙色シルト質土
- 11層：灰色質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
- 12-1層：濃黒褐色シルト質土
- 12-2層：濃灰茶褐色シルト質土
- 13-1層：灰黄色シルト質土
- 13-2層：灰黄色シルト質土～砂質土
- 13-3層：灰黄色シルト質土（茶褐色シルト質土～砂質土が混じる）
- a層：攪乱
- b層：黄灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
- c層：灰色シルト質土（茶褐色シルト質土がブロック状に混じる）
- d層：灰色シルト質土

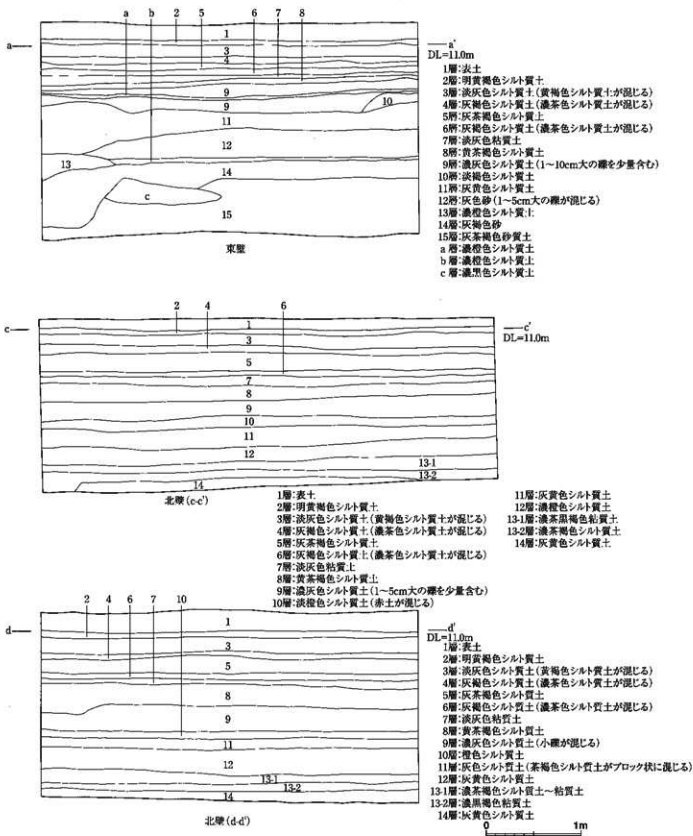


Fig.13 東壁, 北壁 (c-c'), 北壁 (d-d') セクション

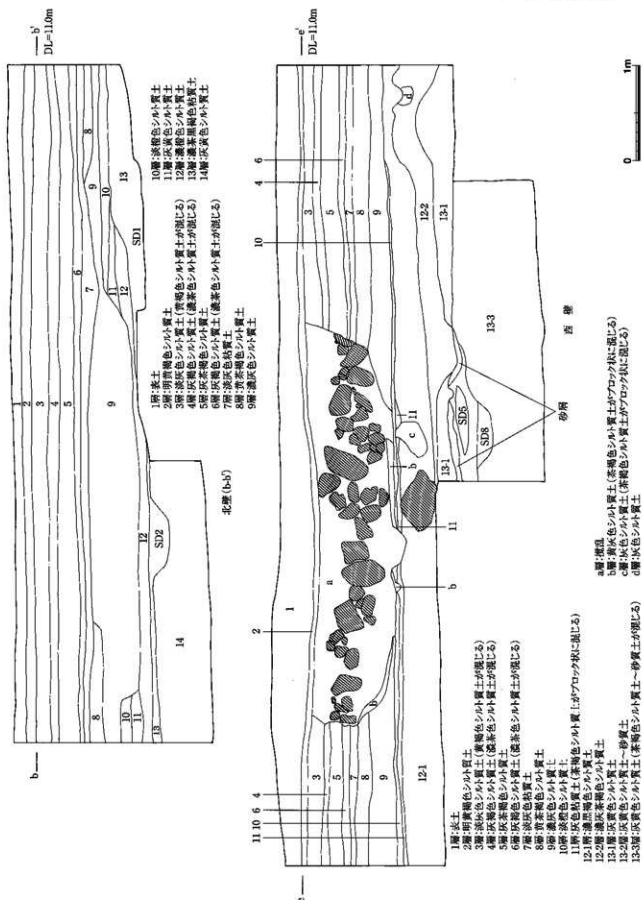


Fig.14 北壁 (b-b'), 西壁セクション

(2) 弥生時代の検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST1 (fig. 15・16)

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸5.40m、短軸5.00m、深さ約40cm、面積約23.7㎡を測る。東側はSD2に切られている。壁は僅かに斜めに立ち上がり、北東壁には幅10～15cm、深さ4.5～7cm前後の壁溝が認められる。埋土は1層：灰黄色シルト質土、2層：灰茶褐色シルト質土、3層：濃茶褐色シルト質土、4層：砂質土、5層：灰茶褐色シルト質土（炭化物を含む）、6層：灰黄褐色シルト質土～砂質土、7層：灰黄色シルト質土である。北東部に炭化物の混じった広がりが見られる。

北西部に長軸1.70m、短軸1.40mの落ち込みがあるが、住居との関係は不明である。床面からは14個のピットが確認できた。中央ピット（P2-2）は隅丸長方形を呈し、長軸0.78m、短軸0.56m、深さ45cmを測る。北西部に1段の落ち込みがあり、側面がオーバーハングしている。10～20cm大の河原石が4つ置かれていたが、使用痕は確認できなかった。位置関係から支柱穴を求めればP1-1・3-2・4-4の3つを挙げることができる。柱穴間の長さは、P1-1・3-2間2.4m、P3-2・4-4間2.5mを測る。支柱は4本と想定できるが、精査したにもかかわらず、南東の柱穴に該当するものは検出できなかった。

住居東側に盛土成形と考えられるベッド状遺構を有する。高床部の幅は20～85cmで、南に行くほど狭くなっていく。底床部との比高差は20cm前後を測る。図示した遺物は弥生土器壺（101・109）、甕（100・107・108）、高坏（104～106）、P2-2より高坏脚部（102・103）、叩石（110）である。109は黒斑がある。弥生土器細片がP1-3から4点、P2-2から3点、P2-4から5点、P2-5から5点、P4-4から10点出土しており、タタキが施されるものも認められる。その他、弥生前期末の土器も混入しているが、ST1は弥生時代後期中葉に属するものと考えられる。

表2 ST1ピット計測表

ピットNo	平面規模 (cm)	深さ (cm)	平面形態
P1-1	径 22	28	円形
P1-2	径 12	21	円形
P1-3	22×26	22	楕円形
P2-4	22×18	23	楕円形
P2-5	径 20	20	円形
P3-1	径 22	16	円形
P3-2	径 18	18	円形
P3-3	径 28	11	円形
P3-4	26×36	16	楕円形
P4-1	20×12	7	楕円形
P4-2	24×28	10	不整形円形
P4-3	22×24	12	楕円形
P4-4	径 24	35	円形

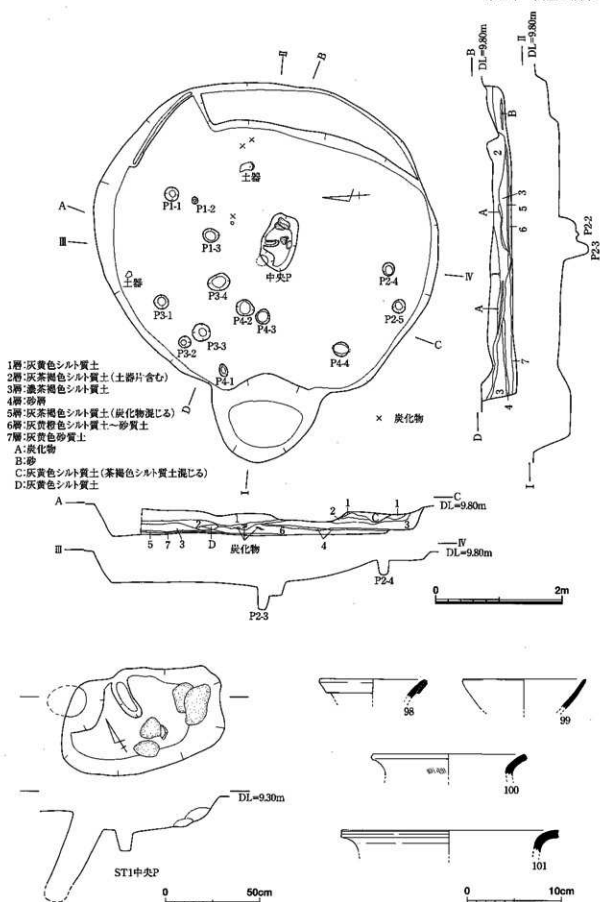


Fig.15 ST1平面・セクション及び出土遺物

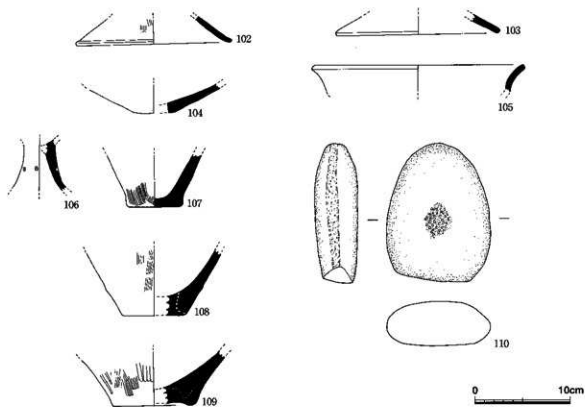


Fig.16 ST1 出土遺物

ST2 (fig. 17・18)

調査区西部ST1の西側に位置する。平面形は円形を呈し、長軸5.40m、短軸5.30m、深さ約47cm、面積約21.2㎡を測る。埋土は1層：灰茶色粘質土、2層：灰茶色粘質土（1層）に黄色シルト質土がブロック状に混じる、3層：黄色シルト質土、4層：黄灰色土、5層：カーボンの混入した粘土層である。

床面からは6個のピットが確認できた。中央ピットは不整楕円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.50m、深さ12cmを測り、北西隅に1段の落ち込みがある。主柱穴はP53・54・56・57で、柱穴間の長さは、P53・54間2.3m、P53・56間2.3m、P56・57間1.8m、P54・57間2.3mを測る。南西隅のP58は長軸0.70m、短軸0.50m、深さ32cmを測り、土坑状を呈する。

住居北側と西側に盛土成形と考えられるベット状遺構を有する。前者は高床部の幅1.2mを測り、底床部との比高差は5cm前後を測る。後者は高床部の幅1.1m-1.7mを測り、底床部との比高差は14cm前後を測る。

出土遺物は、弥生土器壺(116)、甕(112・114・115)、鉢(113)、高坏(117~119)、石包丁(120・121)である。壺(111)が北側・西側ベット間の床面より出土する。111は被熱している。112は被熱赤変している。115は被熱しており、底部に黒斑がある。

ST2はST1とはほぼ同時期であり、弥生後期中葉に属すると考えられる。

表3 ST2ピット計測表

ピットNo.	平面規模 (cm)	深さ (cm)	平面形態
P53	14×16	20	不整楕円形
P54	36×30	15	楕円形
P56	22×30	11	楕円形
P57	62×68	44	楕円形
P58	52×70	33	長楕円形

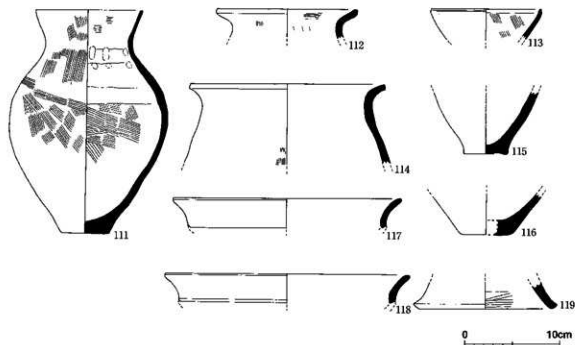
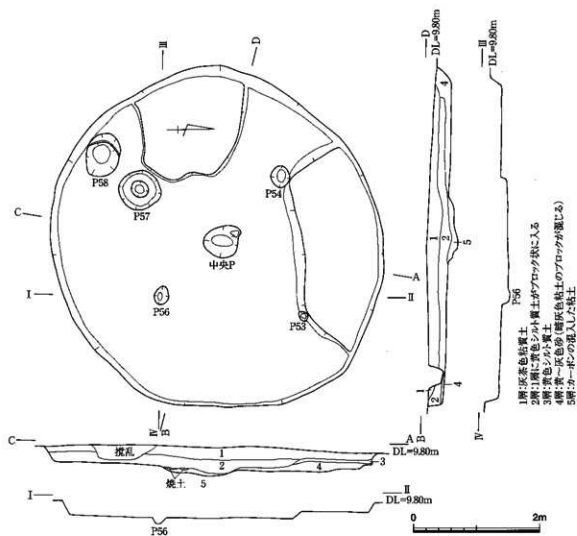


Fig.17 ST2平面・セクション及び出土遺物

②土坑

SK3 (fig. 19)

調査区東部ST1の北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.45m、深さ約15cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片14点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物はない。

SK11 (fig. 19)

調査区中央部に位置する。平面形は長丸形で溝状を呈し、長軸4.60m、短軸0.84m、深さ約58cmを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は1層：濃茶褐色粘質土、2層：1層に黄褐色粘質土が混じる、3層：濃灰茶色シルト質土（弥生土器混じる）、4層：3層に黄褐色シルト質土が混じる、5層：灰黒色シルト質土である。

出土遺物は弥生土器壺底部（123・124）、鉢（122）が図示できた。その他、弥生土器細片48点が出土しており、弥生後期に属する。

SK12 (fig. 20)

調査区中央部北端に位置する。試掘トレンチ9で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.10m、深さ約42cmを測る。断面形はすり鉢状に落ち込み舟底状である。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器壺（125・126・129）、甕（127・130）、高坏（131）が図示できた。その他、弥生土器細片26点が出土しており、弥生後期前半に属する。

SK13 (fig. 20)

調査区中央部SK12の南側に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.10m、深さ約41cmを測る。断面形は舟底状で北側に1段の段を呈している。埋土は1層：濃茶褐色粘質土（13層と類似、土器片含む）、2層：明褐色粘質土（1層がブロック状に混じる）、3層：灰黒色シルト質土（黄褐色シルト質土が混じる）である。

出土遺物は弥生土器甕（128）が図示できた。その他、弥生土器細片15点が出土しており、弥生後期後半に属する。

SK15 (fig. 21)

調査区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸2.02m、短軸1.40m、深さ約9cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片2点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

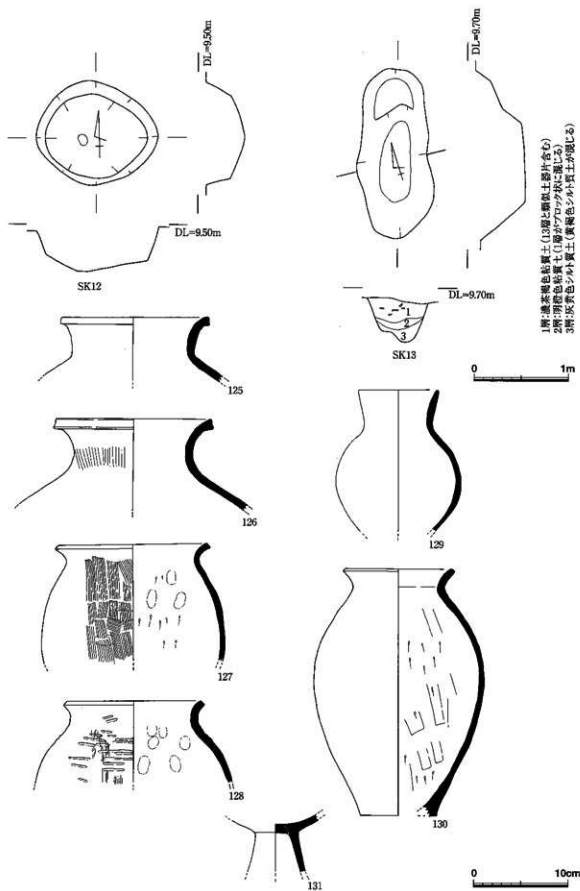


Fig.20 SK12, 13平面・セクション及びSK12出土遺物

SK16 (fig. 21)

調査区中央部SK15の西隣に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.82m、深さ約12cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片7点が出土みられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK18 (fig. 21)

調査区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.64m、短軸0.48m、深さ約13cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片2点のみみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK20 (fig. 21)

調査区南端中央部に位置する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.87m、短軸0.52m、深さ約57cmを測る。中央部に一段のビット状の落ち込みが認められる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片23点のみみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK21 (fig. 21)

調査区南端中央部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.86m、短軸0.56m、深さ約28cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北側壁はなだらかに立ち上がり、南側壁はほぼ直線的に立ち上がる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は甕底部(132)が図示できた。その他、弥生土器細片4点が出土しており、弥生前期に属する。

SK22 (fig. 21)

調査区南部に位置する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.57m、短軸0.34m、深さ約16cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片4点が出土しており、図示できる遺物はない。弥生後期に属する。

SK26 (fig. 21)

調査区南部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.21m、深さ約11cmを測る。平面形は逆台形状を呈し、床面は平坦面をなす。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片4点のみみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK27 (fig. 21)

調査区中央部に位置し、SK28に隣接する。平面形は長丸形を呈し、長軸0.70m、短軸0.34m、深さ約33cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片7点がみられるが詳細な時期は不明で、図示できる遺物はない。

SK28 (fig. 21)

SK27の西側に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.59m、深さ約32cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。出土遺物はない。

SK30 (fig. 22)

調査区中央部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.52m、短軸0.50m、深さ約18cmを測る。断面は舟底状を呈し、北側に段がみとめられる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片2点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物はない。

SK32 (fig. 22)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.60m、深さ約25cmを測る。断面は逆台形を呈し、南側に段がみとめられる。埋土は濃黒褐色粘質土の単純一層である。

出土遺物は弥生土器細片5点がみられるが詳細な時期は不明であり、図示できる遺物はない。

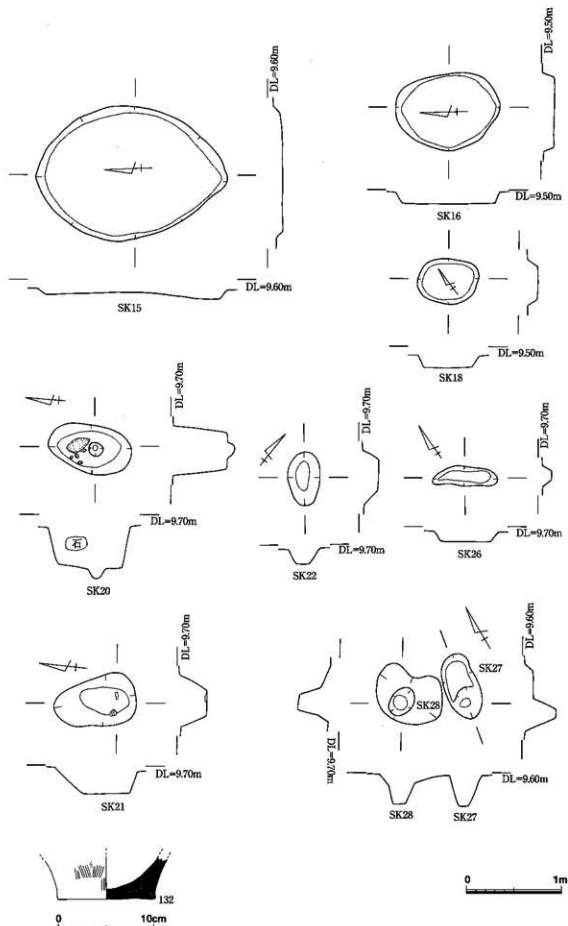


Fig.21 SK15, 16, 18, 20~22, 26, 28平面・エレベーション及びSK21出土遺物

③溝

SD 1 (fig. 22)

調査区東側に位置し、南西向けに延びる溝である。溝北側は調査区外に延びており全体の規模は不明である。南西側は攪乱による削平を受けている。確認延長9.05m、幅約1.03m、深さは約15cmを測る。小ピットが数個存在しているが、SD 1との関係は不明である。

出土遺物は壺底部 (135)、甕 (134)、ミニチュア土器 (133) が図示できた。その他、弥生土器細片19点が出土している。

SD 2 (fig. 12・23)

SD 1の西側に位置する。調査地の形状に沿うような形で半円を描くように延びている。溝の北東部は調査区外に延びる。確認延長約55.00m、幅約0.40m、深さ12～30cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、弥生土器壺 (136～140・150～154・156) 壺底部 (143・147・149・160～162)、甕 (141・142・155・157)、甕底部 (144～146・148・158・159) が図示できた。148は外面が煤け、被熱赤変している。その他、弥生土器細片1697点、須恵器細片2点、石製品4点、近世陶磁器2点が出土している。

SD 5 (fig. 24)

調査区西端に位置する。南北に延びる直線的な溝である。北側、南側ともに調査区外へ延びており、SD 8を切っている。確認延長5.80m、幅約0.40m、深さ8cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は弥生土器甕 (164) が図示できた。その他、弥生前期末の土器細片を含む59点、石製品1点が出土している。

SD 8 (fig. 24)

調査区西端に位置する。南北に延びる曲線的な溝で、北側、南側とも調査区外へ延びている。確認延長6.00m、幅約0.45m、深さ12cmを測る。断面形は逆台形である。埋土は濃黒褐色粘質土であり、出土遺物はない。

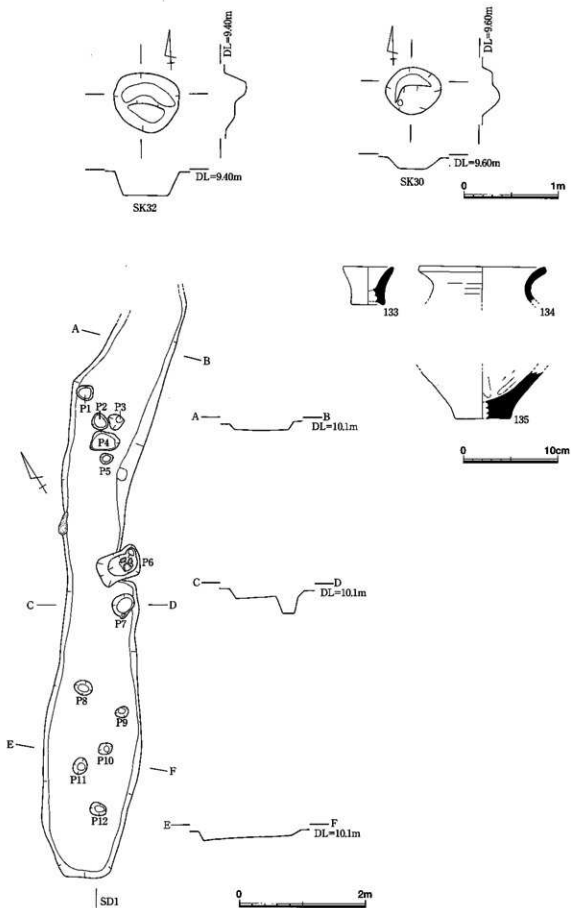


Fig.22 SK30, 32, SD1 平面・エレベーション及びSD1 出土遺物

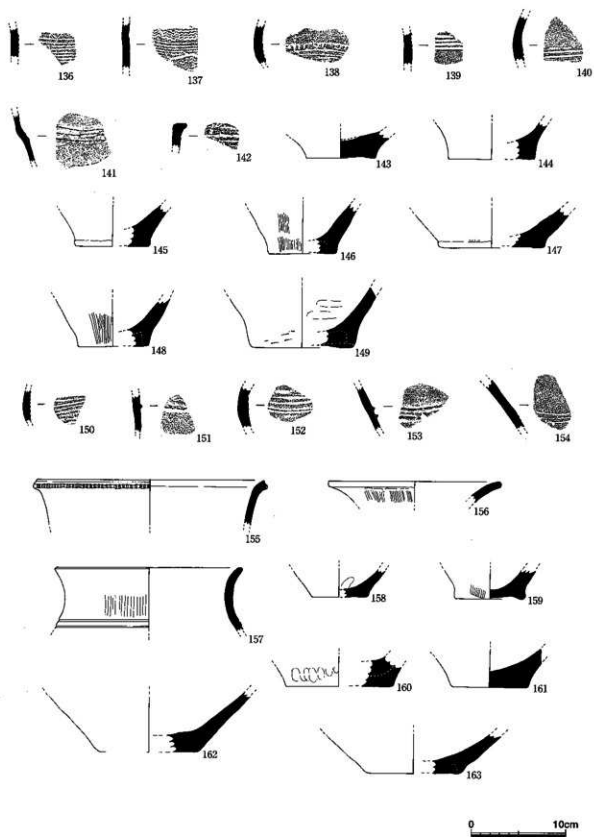


Fig.23 SD 2 出土遺物

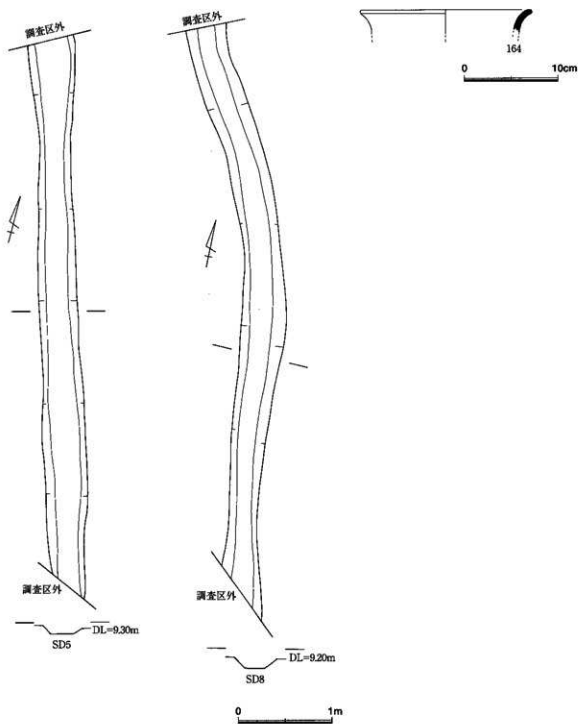


Fig.24 SD 5, 8 平面・エレベーション及びSD 5 出土遺物

④性格不明遺構

SX1 (fig. 25・26・27)

調査区南西側に位置する。平面形は卵形を呈し、中央に向けてなだらかに落ち込んでいる。長軸8.00m、短軸5.82m、深さ約40～52cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、弥生土器壺(165～170・172～174)、壺底部(194・196・199～201)、甕(171・175～189)、甕底部(191～193・195・197・198)、高坏脚部(190)、石包丁(202)、叩石(203)が図示できた。180・183・185は外面が煤けている。186は内外面が煤けている。195は外面が被熱赤変している。197は内外面が煤けている。201は内外面が僅かに煤けている。その他、弥生土器細片1580点、石製品4点が出土している。

⑤ピット

P21 (fig. 28)

調査区東部ST2の南西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.59m、短軸0.58m、深さ約6cmを測る。断面形は逆台形状を呈するが遺構本来の肩は削平されていると思われる。埋土は濃黒褐色粘質土である。壺棺(204)が置かれてあった。弥生後期中業後半と考えられる。

P50 (fig. 29)

調査区東部ST2の南西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.85m、短軸0.70m、深さ約19cmを測る。断面は逆台形状を呈する。埋土は濃黒褐色粘質土である。壺(206)が置かれてあり、高坏坏身(205)を壺にして壺の口にかぶせてあった。その他、弥生土器細片61点、土師質土器細片12点が出土している。

P169 (fig. 12・30)

調査区中央南端に位置する。長軸0.50m、短軸0.36m、深さ約8cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺底部(219)が図示できた。その他、弥生土器細片4点が出土している。

P177 (fig. 12・30)

調査区中央南端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.40m、短軸0.33m、深さ約10cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、甕(214)が図示できた。外面に黒斑がある。その他、弥生土器細片3点が出土している。

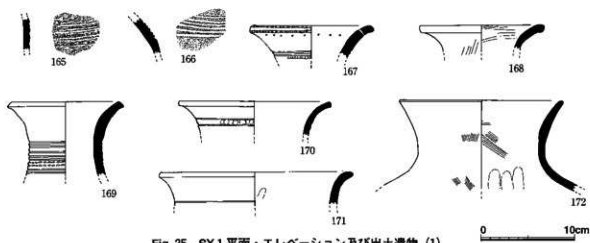
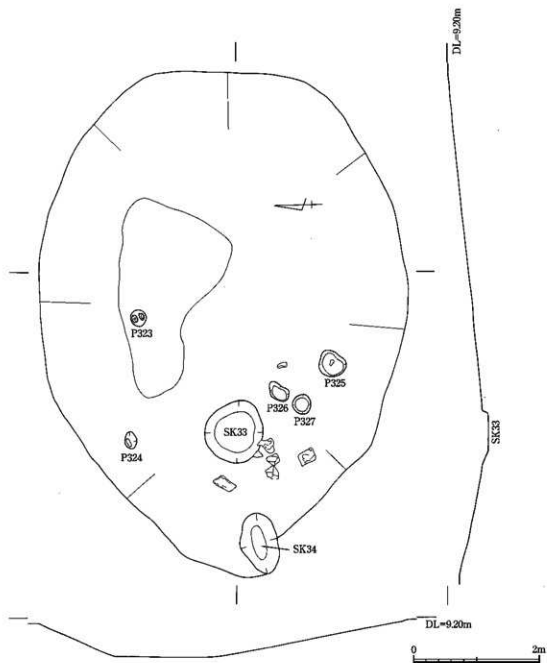


Fig.25 SX1 平面・エレベーション及び出土遺物 (1)

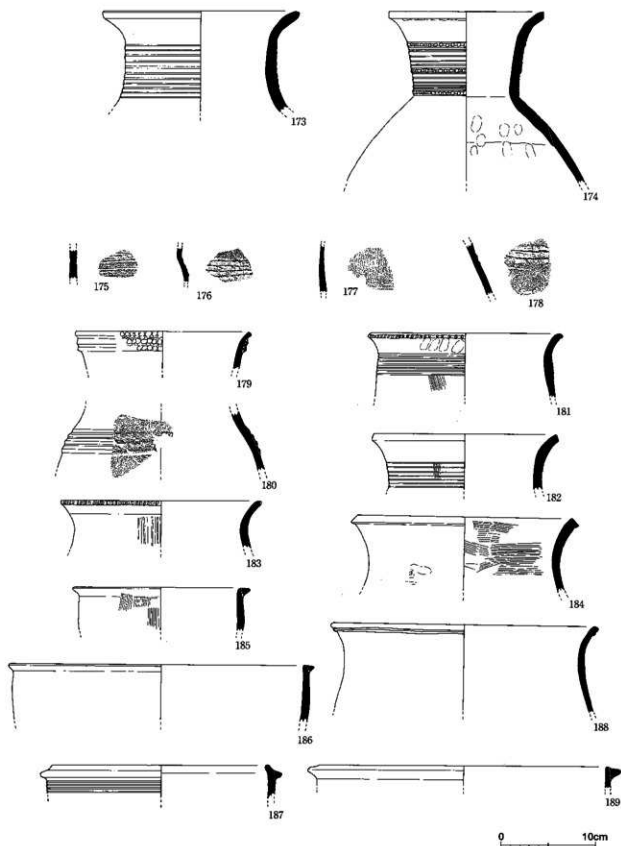


Fig.26 SX1 出土遺物 (2)

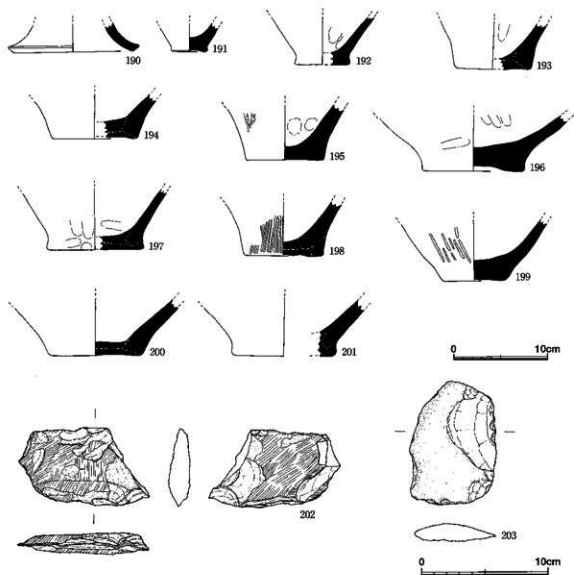


Fig.27 SX1 出土遺物 (3)

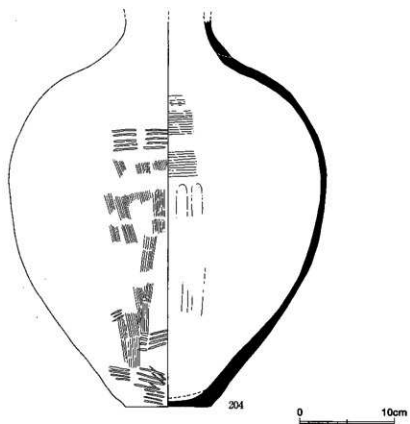
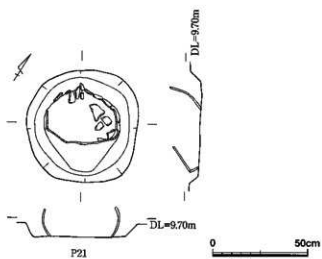


Fig. 28 P21平面・エレベーション及び出土遺物

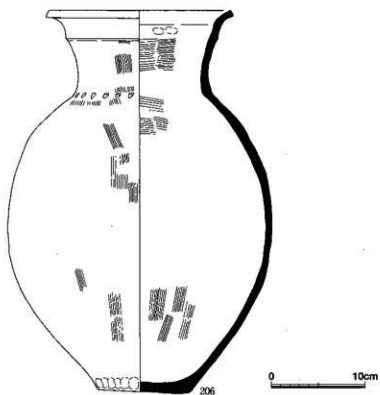
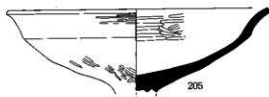
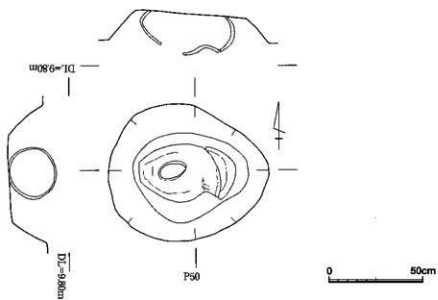


Fig. 29 P50平面・エレベーション及び出土遺物

P217 (fig. 12・30)

調査区西部SX 1の北端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.36m、短軸0.30m、深さ約12cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺(209)が図示できた。

P221 (fig. 12・30)

調査区西部SX 1内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.42m、短軸0.36m、深さ約25cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺(207)、甕底部(216)が図示できた。216は外面が煤けている。その他、弥生土器細片13点が出土している。

P225 (fig. 12・30)

調査区西部SX 1内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.48m、短軸0.45m、深さ約32cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺(212)、甕(210)が図示できた。その他、弥生土器細片14点が出土している。

P234 (fig. 12・30)

調査区西部SX 1内に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.24m、短軸0.19m、深さ約17cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺(208・211・213)、甕(215)が図示できた。その他、弥生土器細片149点が出土している。

P267 (fig. 12・30)

調査区西部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.28m、短軸0.26m、深さ約12cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、甕底部(217)が図示できた。外面が被熱赤変している。その他、弥生土器細片1点が出土している。

P290 (fig. 12・30)

調査区西部端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.49m、短軸0.42m、深さ約19cmを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。

出土遺物は、壺底部(218)が図示できた。外面が被熱赤変している。その他、弥生土器細片4点が出土している。

⑥集石遺構

集石遺構 2 (fig. 31)

調査区南端中央部に位置する。SD 2埋没後つくられたものである。範囲は長軸4.40m、短軸1.60mを測る。埋土は濃黒褐色粘質土である。拳～人頭大の石が間を割るように2群にわかれる可能性もあるがここでは1群のものとした。石底のレベルは中央へいく程低くなっており、中央部には何らかの落ち込みのあった可能性も指摘できる。

出土遺物は、弥生土器壺(220)、壺底部(221・222)が図示できた。集石にともなうものでなく、SD 2埋土中にあったものが混入した可能性がある。時期は不明であるが、祭祀行為に関係する遺構の可能性が高い。

集石遺構 3 (fig. 31・32)

調査区南西部端に位置する。SD 2埋没後つくられたものである。範囲は長軸5.00m、短軸2.50mの範囲である。埋土は濃黒褐色粘質土である。5～15cm大の石が比較的均等に散在しており、中央部に石のない空間が認められるが、その意味は不明である。

出土遺物は、弥生土器壺(223～225・227・228)、壺底部(230・232・233)、甕(226・229)、甕底部(231・234・235)が図示できた。222は被熱赤変している。その他、弥生土器細片744点、産地不明の掘入土器2点が出土している。集石2と同様に集石にともなうものでなく、SD 2埋土中にあったものが混入した可能性がある。時期は不明であるが、祭祀行為に関係する遺構の可能性が高い。

(3) 古代の検出遺構と遺物

①掘立柱建物

SB 1 (fig. 33)

調査区の西部に位置する。掘立柱建物を構成する柱の一部と考えられるが規模等は不明である。柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径20～40cm、深さは20～35cm前後を測る。出土遺物はない。

SB 2 (fig. 34)

調査区西部に位置する。SB 1と切り合い関係にあるが、前後関係は不明である。

主軸方向はN-5°5'Eである。桁行4間(8.7m)×梁間3間(7.2m)で、総柱の南北棟と考えられる。東側と北側の大部分では柱穴を確認することができなかった。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、径20～30cmを測る。柱穴の深さは20～90cmと深度の差が大きい。柱間寸法は桁行2.0～2.5m前後、梁間2.0～2.8m前後を測る。出土遺物はP250より弥生土器細片1点、P254より弥生土器細片1点、P257より弥生土器細片4点、P258より弥生土器細片1点が出土し、P256の掘方床面より、土師器小皿完形品(236)が1点うつ伏せの状態出土している。柱を建てる際の祭祀行為と考えられる。

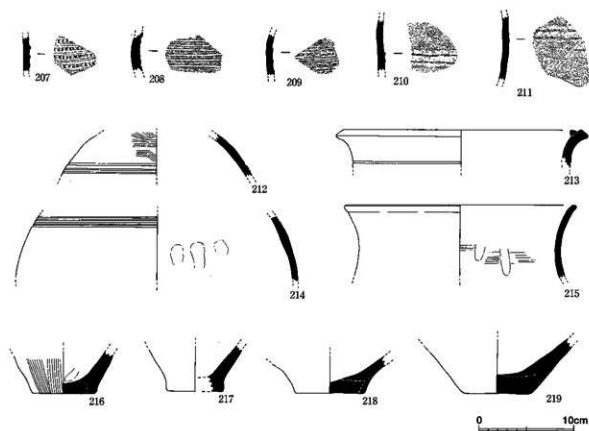


Fig.30 P169(219), P177(214), P217(209), P221(207・216), P225(210・212),
P234(208・211・213・215), P267(217), P290(218)出土遺物

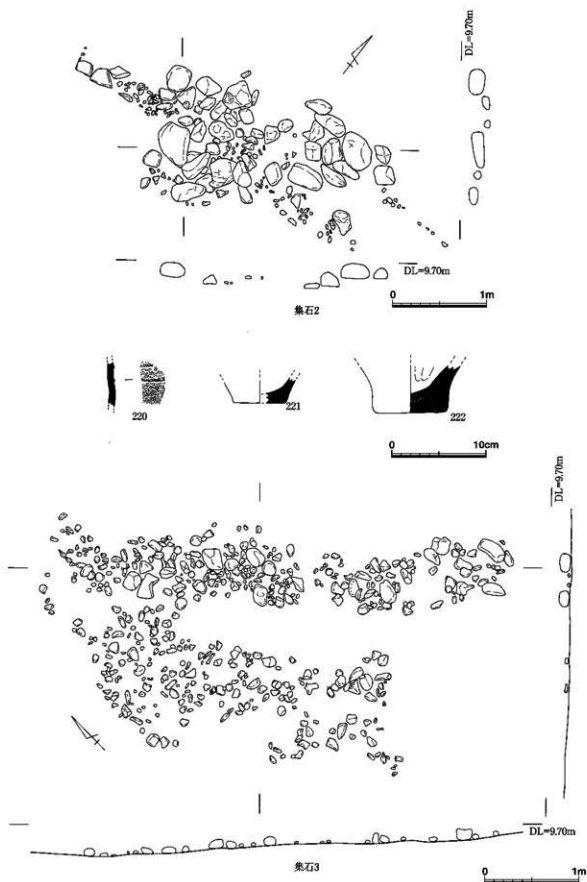


Fig.31 集石 2, 3 及び集石 2 出土遺物

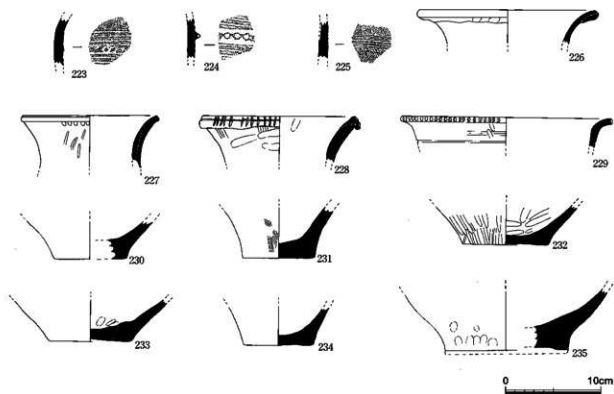


Fig. 32 集石3 出土遺物

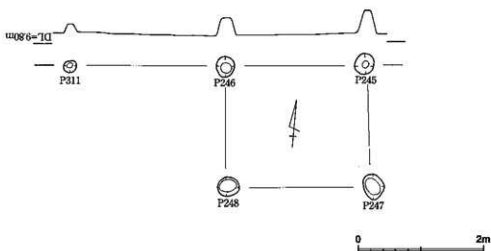


Fig. 33 SB1 平面・エレベーション

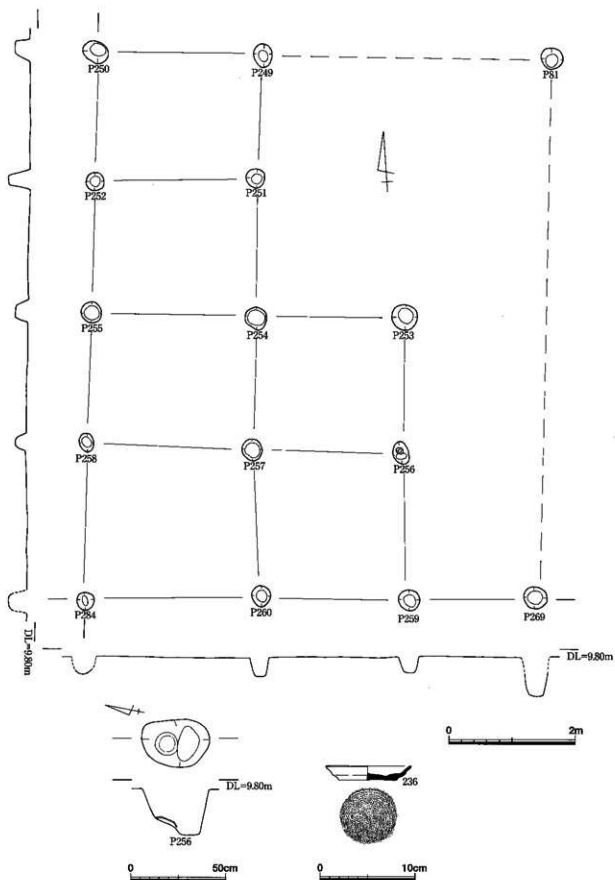


Fig.34 SB 2, P256平面・エレベーション及びP256出土物

(4) その他の検出遺構と遺物

①土坑

SK 1 (fig. 35)

調査区南東部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸3.12m、短軸1.15m、深さ約17cmを測る。床面からは人頭大の河原石が集中して検出されている。この河原石は床全面に並べてあり、意図的に置かれた可能性が高い。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 2 (fig. 35)

調査区東部に位置する。平面形は瓢箪形を呈し、長軸2.57m、短軸1.32m、深さ38cmを測る。東側にテラス状の平坦部を有し、北西側に落ち込みが認められる。落ち込み内には、河原石が1個置かれていた。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 4 (fig. 36)

調査区東端に位置し、SK 5に隣接する。平面形は不整形楕円形を呈し、断面形は舟底状を呈する。長軸0.55m、短軸0.39m、深さ10cmを測る。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 5 (fig. 36)

調査区東端に位置し、SK 4に隣接する。平面形は四角楕円を呈し、長軸1.14m、短軸0.74m、深さ15cmを測る。床面は緩やかに東へ落ち、東壁はオーバーハングしている。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 6 (fig. 36)

調査区東部に位置し、SK 7の北側にある。平面形は楕円形を呈し、長軸0.83m、短軸0.67m、深さ9cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 7 (fig. 36)

調査区東部に位置し、SK 6の南側にある。平面形は不規則な楕円形を呈し、長軸1.26m、短軸1.00m、深さ12cmを測る。床面は平坦面をなす。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK 8 (fig. 36)

調査区東部に位置する。平面形は四角楕円を呈し、長軸1.96m、短軸1.30m、深さ33cmを測る。東側にテラス状の平坦部を有している。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

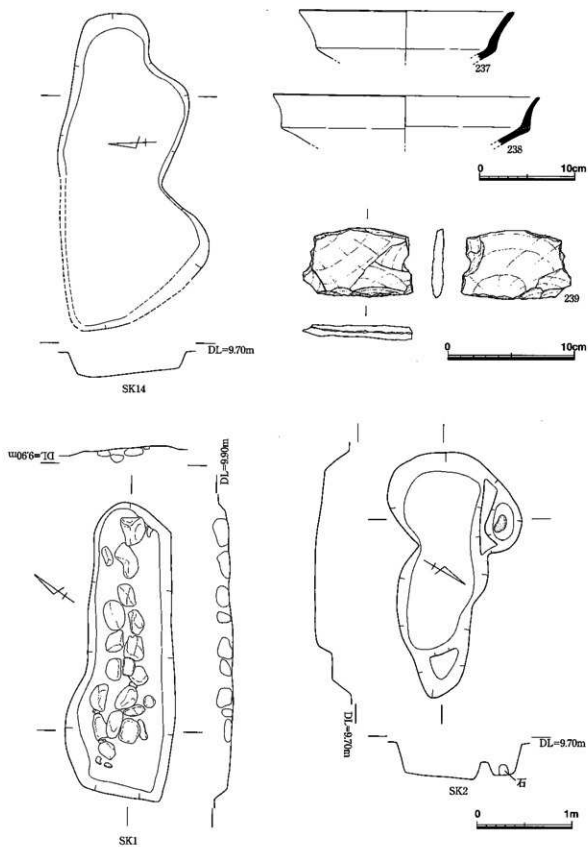


Fig.35 SK1, 2, 14平面・エレベーション及びSK14出土遺物

SK9 (fig. 37)

調査区中央部に位置する。平面形は三角楕円形を呈し、長軸1.64m、短軸0.66m、深さ37cmを測る。断面形は逆台形を呈し、中央と北部に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK10 (fig. 37)

調査区中央部SK9西側に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸1.14m、短軸0.75m、深さ23cmを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK14 (fig. 35)

調査区中央部に位置する。平面形は不規則な楕円形を呈し、長軸3.32m、短軸1.25m、深さ24cmを測る。床面は北から南に向かって傾斜している。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は、弥生土器高坏(237・238)、石包丁(239)が図示できた。その他、弥生土器細片34点が出土している。

SK17 (fig. 36)

調査区西部に位置する。試掘時に一部破壊を受ける。平面形は三角楕円形を呈し、長軸(0.96)m、短軸1.33m、深さ10cmを測る。床面は平坦面をなしている。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK23 (fig. 37)

調査区南部に位置する。平面形は長丸楕円形を呈し、長軸0.81m、短軸0.47m、深さ19cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK24 (fig. 37)

調査区中央部南端に位置する。平面形は三角形を呈し、長軸0.61m、短軸0.56m、深さ17cmを測る。北側に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK25 (fig. 37)

調査区中央部南端に位置する。平面形は四角楕円形を呈し、長軸0.74m、短軸0.36m、深さ34cmを測る。北側に落ち込みが認められる。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK29 (fig. 37)

調査区西部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.10m、短軸0.95m、深さ8cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

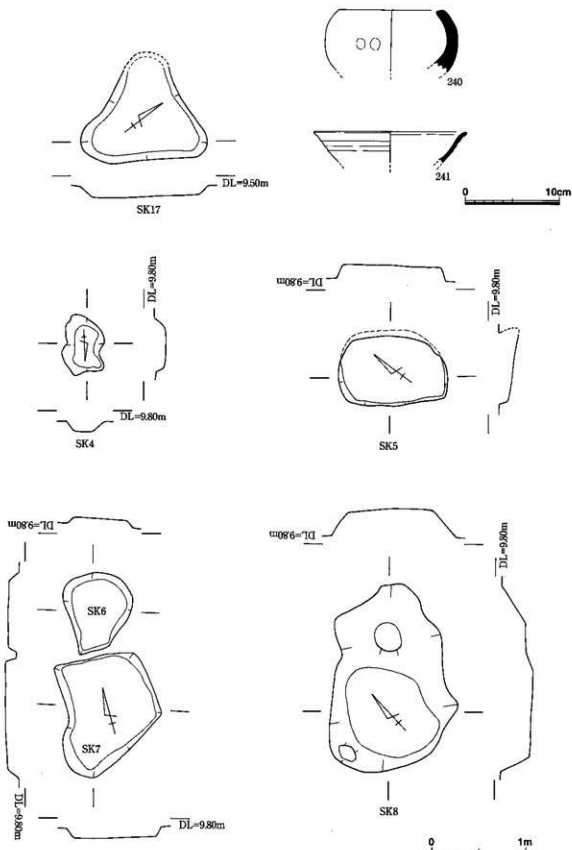


Fig.36 SK4～8, 17平面・セクション・エレベーション及びびSD4 (240), SX3 (241)出土遺物

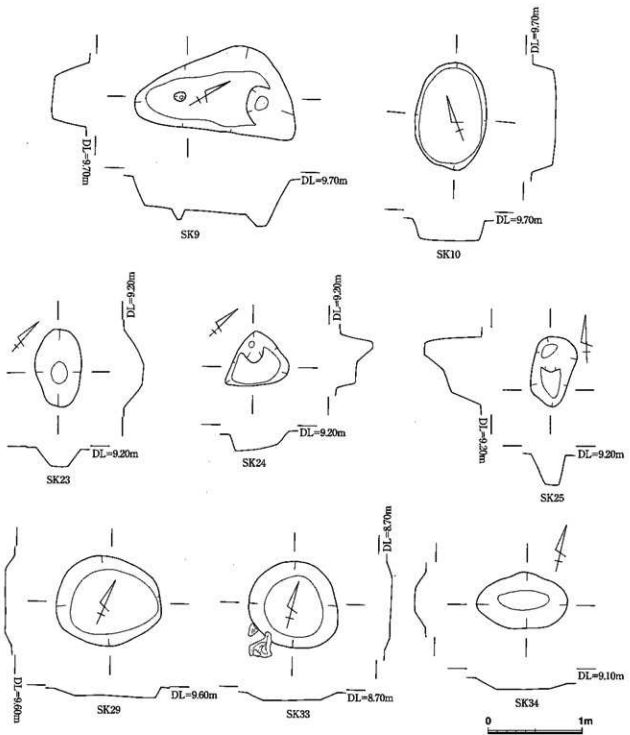


Fig.37 SK 9, 10, 23~25, 29, 33, 34平面・エレベーション

SK33 (fig. 37)

調査区西部に位置する。平面形は円形を呈し、長軸0.93m、短軸0.58m、深さ6cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

SK34 (fig. 37)

調査区西部端に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.96m、短軸0.58m、深さ10cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。出土遺物はない。

②溝

SD 3 (fig. 38)

調査区北部に位置する。北側は調査区外へ延びており、南側はSK14に切られている。確認延長約7.00m、幅0.30~0.55m、深さ30~55cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は弥生土器細片43点がみられるが、詳細な時期は不明である。

SD 4 (fig. 38)

調査区中央部に位置する。北側はSK14に切られている。平面形は楕円形を呈し、確認延長3.50m、幅約0.63~0.70m、深さ63~70cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、床面は北へいく程低くなっている。埋土は濃灰色シルト質土である。

出土遺物は、瓦器火鉢(240)が図示できた。その他、弥生土器細片3点が出土している。

SD 9 (fig. 39)

調査区北西部に位置する。北側は調査区外へ延びている。平面形は不規則な形を呈する溝状の遺構で、確認延長南北8.00mを測り、途中東へ3.90m、北東へ1.70mと枝分かれしている。深さ3.9~6.2cmを測る。出土遺物は、土師器坏(241)が図示できた。

(5) 包含層出土遺物 (fig. 40~44)

図示した遺物は、弥生土器煮(242~266・278・279)、壺底部(315・319・322~329)、甕(267~277・280~300)、甕底部(305~314・316・320・321)、手づくね土器(301)、蓋(302~304)、小坏(335)、坏(336)、高坏(337)、石包丁(330・331)、太形蛤刃石斧(332)、柱状片刃石斧(333)が図示できた。266は被熱赤変しており、内面に黒色物が付着している。274・310・311・317・321・323は外面が被熱赤変している。257・260は赤彩が施されている。246は産地は不明ながらも搬入品と考えられる。その他、弥生土器細片5915点、搬入土器細片3点、須恵器細片2点、瓦器碗細片1点、近世陶磁器19点、鉄製品1点が出土している。

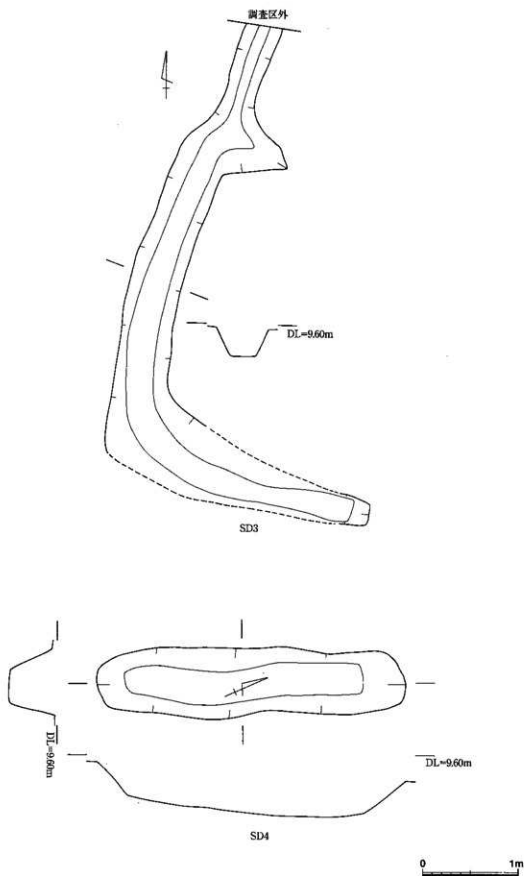


Fig.38 SD3, 4平面・エレベーション

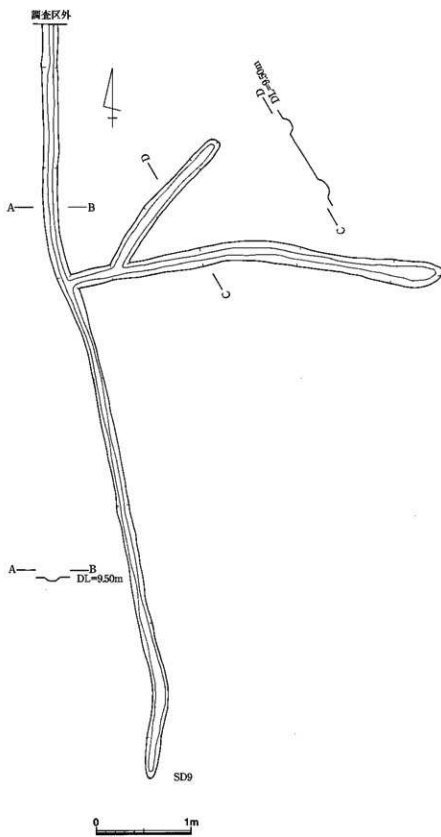


Fig.39 SD9平面・エレベーション

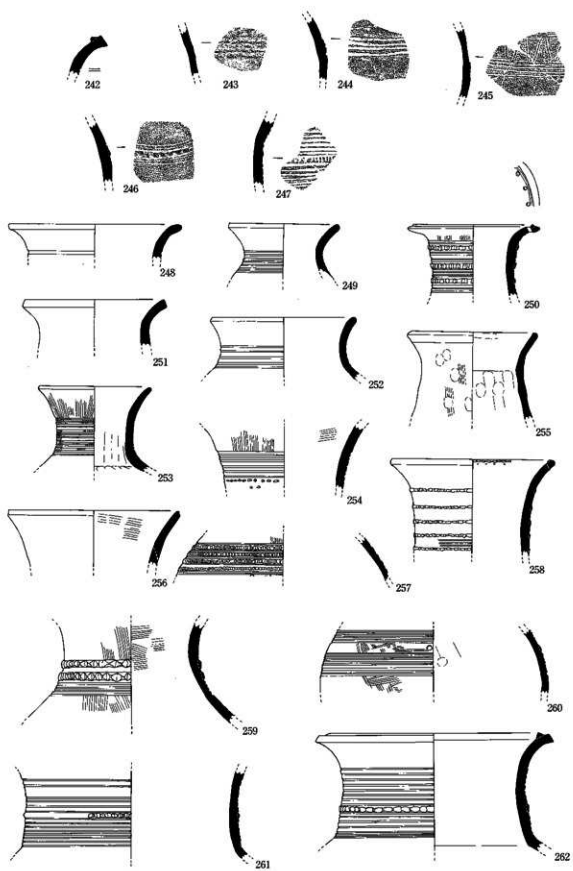


Fig.40 包含層出土遺物 (1)

0 10cm

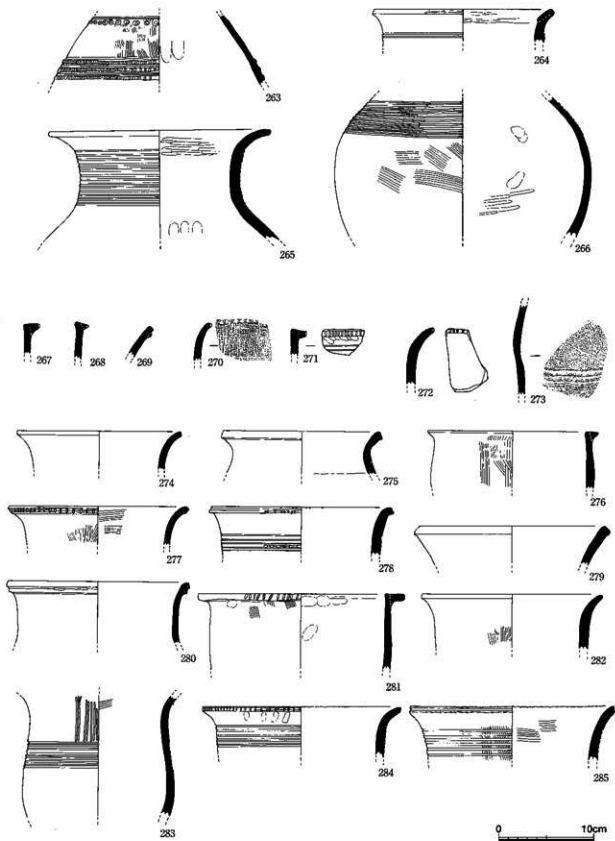


Fig. 41 包含層出土遺物 (2)

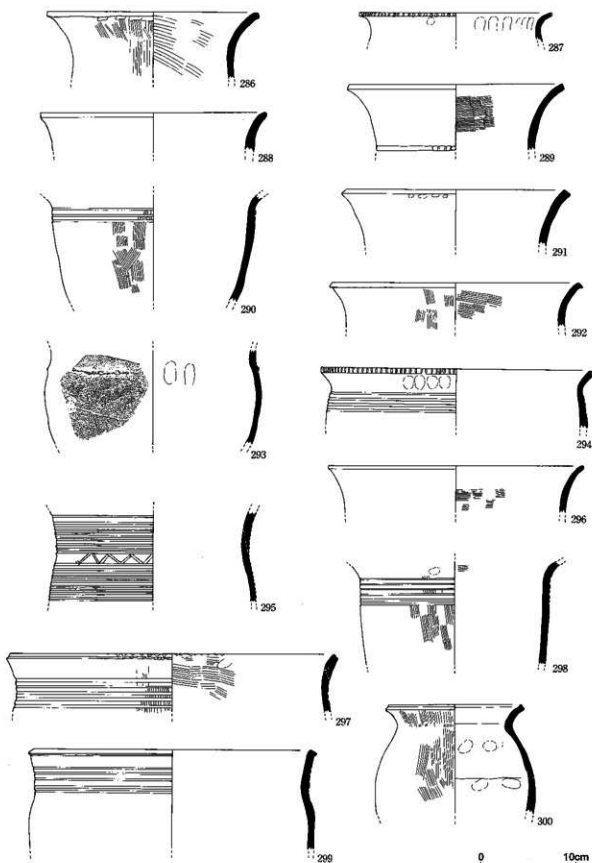


Fig. 42 包含層出土遺物 (3)

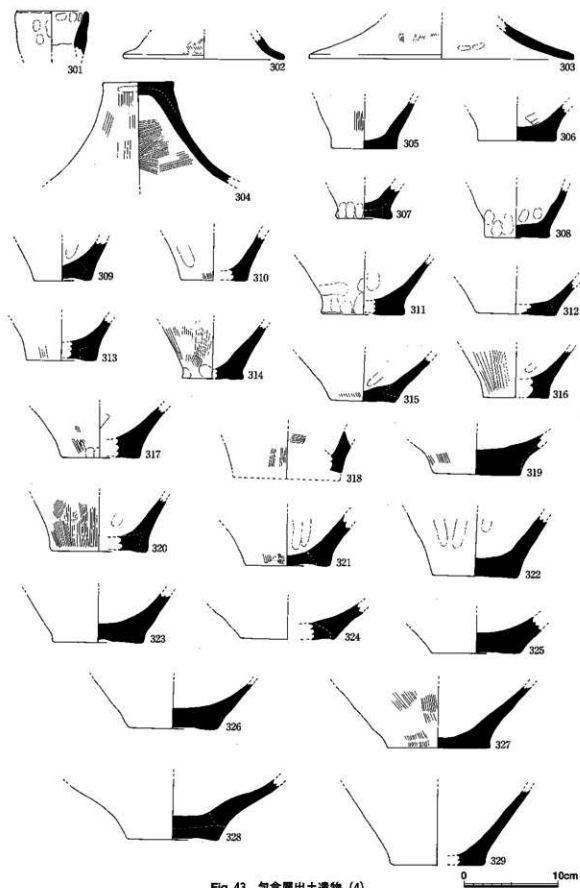


Fig.43 包舍層出土遺物 (4)

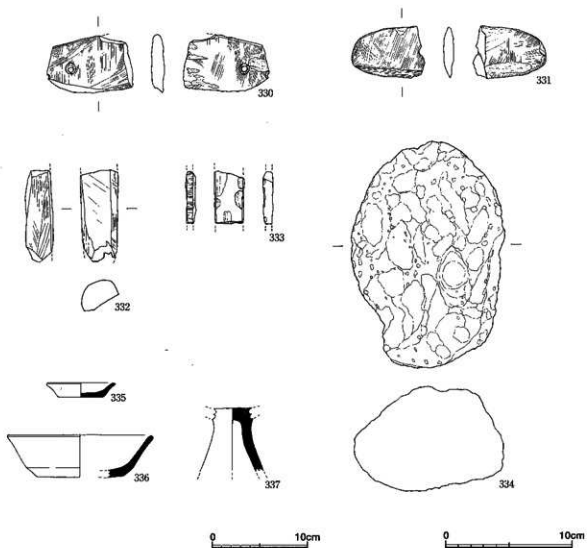


Fig.44 包含層出土遺物 (5)

第IV章 まとめ

上岡遺跡の時期は、大きく分けて弥生時代と平安時代末～鎌倉時代初頭頃である。

その中でも、弥生時代前期～後期までの弥生期の遺物が多量に出土しており、2棟の竪穴住居や土坑、溝等を検出し大きな成果となった。

平成8年度の試掘調査TR1では、遺構の確認はできなかったが、包含層より多量の遺物が出土した。その中でも、弥生時代前期の土器が1m以上積み重なるように出土、TR1の北側に設定したTR7においても同様に遺物が集中して出土している。

また、TR1の北側に位置する性格不明遺構SX1からも、弥生時代前期末～中期の土器が多量に出土している。SX1はSD2に切られており、平面形は卵形を呈し、遺構検出時には竪穴住居と考え調査を行い精査したが、性格は不明であった。

TR1、TR7、SX1の関連は不明であるが、調査区南西側の上岡山裾野部に前期末～中期の土器が集中して出土していることは興味深い。

弥生時代後期の遺構として捉えられるのは、後期前半のSK12、後期中葉ではST1、ST2があげられる。また、後期中葉以降ではSD2、集石遺構2、3があげられ、後期後半ではSK13があげられる。後期の中でも詳細な時期が不明なものにSK11、SK22がある。

後期中葉に捉えることのできるST1とST2は、ほぼ同時期と考えられ、盛土によって成形したと考えられるベッド状遺構を有する竪穴住居である。ST1は北東壁に壁溝が竪穴の側壁に沿って部分的に巡らされているのが確認できた。

ST2の南西側に隣接する、P50とP21には壺棺が置かれており、P21の壺棺は、高坏坏身を蓋にして壺の口にかぶせた状態で出土している。

SD2は調査地の形状に沿うような形で、半円を描くように延びており、ST1を切っている。出土遺物は前期末～中期初頭の土器が出土しているが、ST1との切り合い関係から、後期中葉以降であると考えられる。また、集石遺構2、3は、SD2埋没後につくられたものである。詳細な時期は不明であるが、集石3は、石が比較的均等に散在しており、中央部に石のない空間部分が認められる。意味は不明であるが祭祀行為に関係する遺構の可能性も指摘できる。

次に平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構であるが、調査区西部に掘立柱建物2棟を検出した。SB1とSB2は切り合っているが前後関係は不明である。

SB2は桁行4間×梁間3間で、総柱の南北棟と考えられ、SB2を構成する、柱穴P256の掘方床面より、土師器小皿の完形品がうつ伏せの状態出土している。この事は、柱を建てる際の祭祀行為に関連するものであると考えられる。

また、弥生期のSD2がSB2付近で消滅をしているが、この時期に削平を受け消滅したのと考えられる。

上岡遺跡は物部川の左岸、上岡山の東裾野に立地しており、北側には下ノ坪遺跡が隣接している。下ノ坪遺跡は、弥生時代後期前葉～中葉にかけての集落であることが判っており、上岡遺跡とは密

接な関係を有していたと考えられ、当該期の物部川流域における、田村遺跡を中心とした周辺の遺跡として、また、野市町の物部川左岸部に立地する、下ノ坪遺跡、深淵遺跡、深淵北遺跡等との関連も重要であり、今後の研究の重要な資料として活用していきたい。

遺物觀察表

遺物観察表 (土器) 2

Fig. No	押出番号	出土地点	器種	仏 尺 (cm)				特 徴	備 考
				口徑	器高	胴径	底径		
7	31	TR1	甕	32.4	(6.1)		チャートの磁粒を多く含む。褐色。外口縁部横線ナデ。胴部縦ハケ。内面口縁部へラ磨き。胴部縦ハケ+横ハケ磨き。	外周の一部に赤彩。	
*	32	*	甕				チャートの小礫、磁粒を多く含む。黄褐色。口縁部横ナデ。上縁はヘラ磨き。蓋と口縁。外口縁へラ磨き等。糸。泥層下には白文。沈着帯にも1列の横文を配す。外周縦線ハケ。内面へラ磨き。	外周胴部縦ハケ。	
*	33	*	甕	21.3	(5.6)		チャートの硝。小礫を含む。褐色。口縁部横ナデ。外口縁部横ナデ。胴部縦ハケ。8条までへラ横線磨きを認める。内面ナデ。		
*	34	*	甕	21.4	(11.5)		チャート他小礫を含む。褐色。上腹部にへラ横線磨き10条。両端をあげて7条のへラ横線磨き。その間に瓦線による山形文を配す。底面不明。	外周胴部縦ハケ。	
*	35	*	甕	21.7	(8.0)		チャート他小礫。磁粒砂を含む。黄褐色。口縁部下層目。外口縁部横ナデ+横ナデ。上腹部に1条のへラ横線磨き。その下に白文文を施す。内面口縁部横ナデ。指頭止痕磨き。		
*	36	*	甕	23.5	(7.9)		チャート。赤色風化礫の磁粒を含む。褐色。外周縦ハケ。内面縦ハケ+横ハケ磨き。口縁部指頭止痕が認められる。		
*	37	*	甕	22.6	(7.8)		チャートの磁粒を多く含む。褐色。口縁部横ナデ。外周部。胴部縦ハケへラ磨きを施す。外周縦ハケ。内面縦ハケ。	外周縦ハケ。	
*	38	*	甕	21.0	(18.3)		チャートの磁粒を多く含む。褐色。外周部下部に4条のへラ横線磨き。部分的に縷い状体によって山形文を配す。外周縦線ハケ。内面縦ハケ。外周部縦ハケ。指頭が強い。	外周胴部縦ハケ。	
8	39	*	甕	14.0	(8.5)		チャート他磁粒砂を含む。褐色。外口縁部部分に凹付。外周部横ナデ+横ハケ。外周部縦ハケ。		
*	40	*	甕	18.0	(8.0)		チャート。風化礫の磁粒を多く含む。褐色。外口縁部に4条の胎帯を随伴。外周ナデ磨き。内面ハケ。		
*	41	*	甕	19.0	(5.0)		チャートの磁粒砂を含む。灰褐色。外口縁部横ナデ。胴部に半輪竹管状工具による卑下条線を配す。		
*	42	*	甕	18.0	(5.7)		チャートの磁粒を多く含む。褐色。口縁部部をつまみ出して強く横ナデ。内面ナデナ。		
*	43	*	甕	15.4	(8.2)		長石の磁粒。チャートの小礫。磁粒を多く含む。褐色。外周部縦ハケは瓦線による卑下条線。上腹部に4条までへラ横線磨きを認める。外周ナデ調整。		
*	44	*	甕	19.0	(7.2)		チャートの小礫。磁粒を多く含む。灰褐色。外口縁部。胴部縦ハケ+横ハケ磨き。内面口縁部。胴部横ハケ+横ハケ磨き。外周部。胴部縦ハケに段を有する。		
*	45	*	甕	24.1	(8.7)		チャートの硝。磁粒を多く含む。褐色。口縁部を下方向につまみ出し横ナデ。外口縁部。胴部縦ハケ。胴部。胴部縦ハケ。指頭。胴部縦ハケを随伴。指頭つまみだ後横ナデ。外周部磨き。内面口縁部。胴部縦ハケ。	外周縦ハケ。	
*	46	*	甕	10.0	(6.8)		チャートの磁粒を含む。褐色。口縁部横目。口縁部つまみ出し横ナデナ。外口縁部横ナデ。外周部縦ハケ。		
*	47	*	甕	23.0	(10.5)		チャートの磁粒を多く含む。褐色。胴部。胴部縦ハケに3条の胎帯を随伴し。上から胎帯をつまむ。外周部縦ハケ。胴部縦ハケ。内面縦ハケ。	外周部縦ハケ。	
*	48	*	甕	19.4	(13.7)		チャートの磁粒を含む。褐色。外口縁部横ナデ。胴部縦ハケナデ。胴部縦ハケ。胴部。胴部縦ハケ。上下から胎帯をつまみ寄せるように3本の胎帯を有し。口縁部が厚い。		
*	49	*	甕	10.0	(24.2)		チャートの磁粒砂を含む。褐色。外周部縦線による卑下条線と瓦文。上腹部にも本のへラ横線磨きを施す。内口縁部横ナデ。外周部縦ハケ。指頭の差れが強い。		
*	50	*	甕	22.0	(27.2)		チャートの磁粒を含む。褐色。外周部縦ハケ。内面ナデは横ハケ。下縁はへラ磨き。外周部縦下りのナデ+横ナデ。上腹部に4条の胎帯を随伴し胎帯でつまむ。	胴部中心位縦ハケ。	
9	51	*	甕底片	(5.5)		4.8	チャートの磁粒。赤色風化礫の磁粒砂を含む。褐色。外周縦ハケ。内面ナデ。		
*	52	*	甕底片	(5.5)		(8.0)	チャート。硝の小礫を多く含む。褐色。		
*	53	*	甕底片	(5.5)		7.0	チャートの磁粒。小礫を多く含む。褐色。外周縦ハケ+横ナデ。内面縦ナデ。		
*	54	*	甕底片	(8.0)		6.2	チャートの磁粒。小礫を含む。褐色。外周縦ハケ。下部にのみ右下りのへラ磨き。内面ナデ。	外周部縦ハケ。	
*	55	*	甕底片	(8.3)		8.6	チャートの磁粒を多く含む。黄褐色。外周縦ハケ。内面ナデ。		
*	56	*	甕底片	(6.9)		7.5	チャートの小礫を多く含む。褐色。外周縦ハケ+横ハケ磨き。内面ナデ。	下腹部に大きな黒染あり。	
*	57	*	甕底片	(8.0)		11.2	チャートの小礫を多く含む。褐色。外周部縦ハケ。		
*	58	*	甕底片	(5.5)		10.7	チャート。硝の小礫。磁粒砂を含む。黄褐色。外周縦ハケ。内面ナデ。	大きな黒染あり。	
*	59	*	甕底片	(7.2)		8.0	チャートの小礫を多く含む。褐色。外周縦ハケ+横ハケ磨き。内面ナデミガキ。		
*	60	*	甕底片	(6.5)		5.5	チャートの磁粒を多く含む。灰褐色。外周。底部も含めて縦ハケ+横ハケ磨き。内面ナデ。		
*	61	*	甕底片	(8.4)		9.2	チャート。頁岩の磁粒砂を含む。褐色。内面黒染色塗付。	外周部縦ハケ。	
*	62	*	甕底片	(11.0)		7.3	チャートの小礫。磁粒砂を多く含む。淡灰褐色。外周ハケ+ヘラ磨き。内面ナデ。	下腹部に大きな黒染あり。	
*	63	*	甕	26.0	25.0		チャートの小礫を含む。淡褐色。外口縁部縦ハケ。内面縦ハケ+ヘラ磨き。胴部縦ハケに7条の太へラ横線磨きを施す。外周部縦下りのハケ。	外周部縦ハケ。	

遺物観察表 (土器) 3

Fig. No.	詳細番号	出土地点	器種	法 量 (cm)				背 景	備 考
				口径	器高	胴径	底径		
9	64	TR1	甕形部		(16.1)		6.4	チャート、黒色炭素の粗粒を多く含む。褐色。外面縦ハケ。胴中位黒色物が付着。底部へツ磨き。内面ナデ。	
*	65	*	甕形部		(17.0)		6.0	チャート、他の粗粒を多く含む。黄褐色。内面ナデ。表面の粗粒が散見。	
10	66	*	鉢	7.7	3.9			チャート、赤色風化層を多く含む。褐色。	外周底部に黒質あり。外面被膜赤。
*	67	*	鉢	13.5	(4.1)			チャートの粗粒を多く含む。褐色。外面へツ磨き。外面被膜の粗粒が散見。	
*	68	*	甕					チャートの粗粒を多く含む。褐色。外面へツ磨き。外面被膜の粗粒が散見。	
*	70	*	甕					チャートの粗粒を含む。黄褐色。外面ハケ調整。	
* 71	*	甕		2.9			23.8	チャートの小粒を多く含む。褐色。内面口縁部破ハケナデ。	内外面被膜赤。
* 72	TR7	甕		22.0	5.4			チャート、赤色風化層の小粒を含む。褐色。口縁部ハケ原形による割目。内外面ナデ。上腹部に4本のヘラ焼痕等を施す。	
* 73	*	甕形部		(4.0)			12.0	チャートの小粒。粗粒を多く含む。褐色。外面へツ磨き。内面被膜。	外周下部、底部に大きな黒質あり。
* 74	*	山						チャートの小粒。粗粒を含む。黄褐色。口縁部に径1cmの焼痕穿孔を2箇所有する。外面被膜のみ。内面ナデ。	
* 75	*	甕		15.3	(5.3)			チャート、他の粗粒を含む。黄褐色。口唇部ナデで取ら。口縁部と頸部間に細付突帯を施す。外面縦ハケ。内面横ハケ。	
* 76	*	甕		21.0	4.0			チャート、他の粗粒を含む。黄褐色。口唇部強い横ナデ。内外面口縁部破ナデ。外面被膜ハケ。	
* 77	*	甕		18.5	(5.7)			チャートの粗粒を含む。黄褐色。口唇部の割目は浅い。内外面口縁部強い横ナデ。上腹部に7本のヘラ焼痕等を施す。	
* 78	*	甕		25.2	(3.5)			チャートの粗粒を含む。褐色。外面口縁部に2本の焼痕等を貼付する。内外面被膜ナデ。	
* 79	*	甕		16.0	(4.4)			チャートの粗粒を含む。褐色。内外面口縁部破ナデ。上腹部に5本のヘラ焼痕等を施す。	
* 80	*	甕		18.4	(4.2)			チャートの粗粒を多く含む。黄褐色。口唇部取。外面被膜ハケ。	
* 81	*	甕		16.0	4.1			チャート、他の粗粒を含む。褐色。口唇部に2-4mmの焼痕後の穿孔を有する。内外面ナデ。	
* 82	*	甕		24.6	11.0			チャートの小粒。粗粒を多く含む。褐色。上腹部に1本のヘラ焼痕等を施す。内外面被膜の粗粒が散見。	
* 83	*	甕		23.0	8.5			チャートの粗粒を多く含む。黄褐色。外面上腹部に1本のヘラ焼痕等を施す。内外面被膜不明。	器内面に小さな黒質あり。
11 84	*	甕						チャートの粗粒を多く含む。褐色。口唇部強い横ナデ。外面口縁部に他等を貼付し磨滅つまみ。外面縦ハケ。	
* 85	*	甕		24.0	(5.0)			チャートの粗粒を多く含む。黄褐色。口唇部割目。内外面口縁部強い横ナデ。上腹部に7本以上のヘラ焼痕等を施す。1本の割目を施す。内外面被膜ナデ。	
* 86	*	甕		19.8	(5.4)			チャート、赤色風化層の粗粒を含む。黄褐色。口唇部取。外面口縁部2本の焼痕貼付し磨滅つまみ。下腹に爪形の圧痕を残す。外面横ナデ。内面へツ磨き。	
* 87	*	甕		20.5	(5.3)			チャートの粗粒を多く含む。褐色。内外面口縁部強い横ナデ。	
* 88	*	甕		21.0	5.4			チャートの粗粒を含む。黄褐色。口唇部伸縮工具による深い圧痕。外面口縁部破ハケナデ。	
* 89	*	甕		14.1	(6.5)			チャートの粗粒を多く含む。褐色。外面口縁部 割部破ハケナデへツ磨き。腹部に4本のヘラ焼痕等を施す。	
* 90	*	甕形部		(5.7)			9.6	チャートの小粒。粗粒を含む。外面、白褐色。内面、褐色。内外面ナデナ。	外周下部に黒質あり。
* 91	*	甕形部		(5.7)			7.1	チャート、砂質。質の粗粒を含む。褐色。内面ナデ。外面表面被膜。	
* 92	*	甕形部		(2.3)			7.0	チャートの粗粒を多く含む。褐色。外面縦ハケ。内面ナデ。	外周磨ける。
* 93	TR8-16	小杯		7.5	1.7			赤色風化層の粗粒を含む。褐色。内外面被膜ナデ。器底の粗粒が散見。	
* 94	TR7	杯		14.4	4.5		7.4	チャート、他の粗粒を多く含む。白褐色。内外面被膜ナデ。底部未切り。	
* 95	TR8	杯		-	4.6		3.6	灰石、赤色風化層の粗粒を含む。褐色。内外面被膜ナデ。底部未切り。	
* 96	TR8	杯		13.0	3.5			赤色風化層の粗粒を含む。褐色。内外面被膜ナデ。内外面被膜が散見。	
* 97	*	内面口縁部		16.0	3.9			灰白色。丸縁状口縁。外周部被膜中は磨滅。内面口縁部。	
15 98	ST1 P2-2			11.0	(2.0)			チャート、赤色風化層を多く含む。褐色。外面口縁部に1.5cm幅の粘土帯を貼付。	
* 99	ST1	鉢		13.0	(4.0)			チャート、他の粗粒を含む。褐色。内外面ナデ。	
* 100	*	甕		15.0	(2.4)			チャートの粗粒を含む。黄褐色。外面被膜ハケ。内外面口縁部破ハケ。	
* 101	*	甕		22.4	(2.5)			チャートの粗粒を多く含む。黄褐色。口唇部。内外面口縁部破ナデ。	
16 102	ST1 P1-3	高杯形部		2.0			16.0	チャートの粗粒を含む。褐色。外面縦ハケ。外面被膜破ナデ。	

遺物観察表 (土器) 6

Fig. No	採回番号	出土地点	器種	体 量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	高さ	胴径	高径		
25	184	SS 1	壺	22.7	(7.9)			チャートの細粒砂を多く含む。薄茶色。口縁部下方つまみ出し強い横ナズ。外側口蓋部右りの丁寧なナズ。胴部横方向の窪みナズ。内面磨光。	
*	185	*	壺	18.4	(4.5)			チャートの粗粒。磁鉄を含む。薄茶色。外面縦ハケ。	外面磨ける。
*	186	*	壺	22.0	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。内外両面磨光の窪れが強い。	内外両面磨ける。
*	187	*	壺	23.0	13.0			チャートの粗粒砂を多く含む。雲母、石英粒を含む。褐色。口縁部下に尖突。尖突下に4条までへう線状磨光を認める。	
*	188	*	壺	27.5	(8.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。口縁部下に1条の微細磨光を認む。	
*	189	*	壺	20.0	(2.2)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。道し下口縁。	
27	190	*	高坪 脚部		(3.0)		12.7	チャートの粗粒砂を含む。黄茶色。外面縦ハケ。	
*	191	*	壺底部			3.6		チャート層・粗粒砂を含む。薄茶色。内面ナズ。	外面磨ける。微熱赤変。
*	192	*	壺底部		(5.0)		5.8	チャート・赤色風化層の粗粒を含む。茶色。外面縦ハケ。底面は台形。	外面磨ける。
*	193	*	壺底部		(5.0)		7.8	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ。	外面微熱赤変。
*	194	*	壺底部		(4.8)		8.0	チャートの小礫。粗粒砂を多く含む。薄茶色。外面縦ハケ。	
*	195	*	壺底部		(6.0)		8.2	チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面縦ハケ。底面磨き。	外面微熱赤変。
*	196	*	壺底部		(6.0)		10.7	チャート・赤色粒砂を多く含む。褐色。外面縦ハケ。四角ナズ。	
*	197	*	壺底部		(6.4)		10.1	チャート・赤色風化層の小礫。粗粒砂を多く含む。茶色。薄熱不揮。	外面磨ける。内面底から5cm程上から磨ける。
*	198	*	壺底部		(5.8)		8.3	チャートの磁・粗粒砂。雲母、灰石の粗粒砂を多く含む。灰茶色。外面縦ハケ。	
*	199	*	壺底部		(8.5)		6.8	チャートの粗粒砂を含む。茶色。外面縦ハケへう磨き。	
*	200	*	壺底部		(5.9)		9.8	チャート・赤色風化層の小礫・粗粒を多く含む。薄茶色。内外両面磨光不明。	
*	201	*	壺底部		(6.2)		10.6	チャートの磁・粗粒砂を含む。黄茶色。外周面に叩き度を認める。	内外両面わずかに磨ける。
28	204	P21	壺			33.0	9.0	チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面叩き。大半を縦ハケで覆す。内面上部に横ハケ。中位以下は直ナズ。	外面縦付法に大きな凹痕あり。
29	205	P50	高坪	27.5	8.6			チャートの磁・粗粒砂を含む。褐色。内外両口縁部縦へう磨き。外面両面縦方向のへう磨き。	
*	206	*	壺	19.0	40.2			チャート。磁の粗粒砂を多く含む。褐色。口縁部取厚。口縁部は強い横ナズ。外側口縁部下に尖突。基部下端に太い刺状突起を有する。外面縦ハケ。内面上部微熱赤変。下部縦ハケ。	
30	207	P221	壺					チャートの磁・粗粒砂を含む。薄茶色。外周に微細直線文と若干な面目尖突を認む。	
*	208	P234	壺					チャートの砂鉄を多く含む。黄茶色。外面に6条のへう線状磨光と若干な面目尖突を1条認める。内面直ナズ。	
*	209	P217	壺					チャートの磁・粗粒砂を含む。褐色。微細直線文と若干な面目尖突を認む。	
*	210	P225	壺					チャート。赤色風化層を含む。薄茶色。上部部に2条の微細磨光を認む。	
*	211	P234	壺					チャート・赤色風化層を含む。薄茶色。小尖突を2条認む。内外両ナズ。	外面微熱赤変。
*	212	P225	壺					チャートの砂鉄を多く含む。灰茶色。へう線状磨光を7条まで認める。外面縦ハケ。	
*	213	P234	壺	17.0	(4.0)			チャートの磁・粗粒砂を多く含む。褐色。内側口縁部に太い断面三内尖突を認む。内外直ナズ。	
*	214	P177	壺					赤色風化層の粗粒。雲母を多く含む。薄茶色。上部部に4条のへう線状磨光を認める。外面磨光。	外面両面高熱赤変あり。
*	215	P234	壺	23.7	(7.7)			チャート。灰石・赤色風化層の磁・粗粒砂を含む。薄茶色。外側口縁部強い横ナズ。外直ナズ。内面縦ハケ。	
*	216	P221	壺底部		(4.0)		6.5	チャート・赤色風化層の粗粒を含む。薄茶色。外面縦ハケ。	外面磨ける。
*	217	P267	壺底部		(5.0)		5.7	チャートの粗粒砂を多く含む。外面縦ハケ。	外面微熱赤変。
*	218	P290	壺底部		(4.0)		7.2	チャートの粗粒を多く含む。内面黄茶色。	外面微熱赤変。
*	219	P169	壺底部		(5.5)		7.4	チャート・赤色風化層・灰石の粗粒砂を含む。褐色。磁鉄の窪れが強い。	底面外周に風痕あり。
31	220	集石 2	壺					チャートの磁・粗粒砂を含む。褐色。断面二内的小尖突を2条認む。微熱な微細直線文を有する。	
*	221	*	壺底部		(2.4)		5.4	チャート。頁岩粗粒を多く含む。茶色。内外面ナズ。	
*	222	*	壺底部		(5.0)		(7.0)	チャートの磁・粗粒砂を多く含む。外周縦褐色。内面黄茶色。	微熱赤変。
32	223	集石 3	壺					チャートの磁・粗粒砂を多く含む。黄茶色。外面7条のへう線状磨光と1条の断面平直尖突が認められる。外面縦ハケ。内面ナズ。	
*	224	*	壺					チャート。赤色風化層の粗粒を多く含む。褐色。断面二内のしっかりした尖突を認む。縁以上で微く磨む。へう線状磨光を7条まで認める。	
*	225	*	壺					チャート。雲母の磁・粗粒砂を含む。茶色。7条のへう線状磨光を認んで、上下に反端による凹痕を認む。	
*	226	*	壺	18.5	(3.5)			チャート。灰石・赤色風化層の粗粒を含む。褐色。外側口縁部縦2cmの粗土層を認む。縁で押さえる。	

遺物観察表 (土器) 7

Fig. No	群回番号	出土地点	器種	法 量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	器高	胴径	底径		
32	227	桑石3	壺	14.0	5.6		チャート、灰の糠・細粒砂を含む。褐色。口唇部細いヘラ縞状線帯。外周口縁部縦ハケ+巻き。頸部圧痕を認める。内面強い横ナダ。裏口縁。		
*	228	*	壺	16.0	4.8		チャートの細い一層状砂、綿品灰質を含む。薄茶色。口唇部1本のヘラ縞状線帯+頸目。外周口縁部縦ハケ+部分の巻。内面横ナダ。		
*	229	*	壺	22.0	3.1		チャートの粗粒砂を含む。薄茶色。口唇部刻目。内外周口縁部縦ハケ+ナダ。1本のヘラ縞状線帯を認める。		
*	230	*	甕形部	(4.0)		7.5	チャート、赤色風化層の粗粒砂砂を含む。黄茶色。		
*	231	*	甕形部	(5.0)			チャートの小粒、頁岩粗粒砂を多く含む。黄褐色。		
*	232	*	甕形部	4.3		9.0	チャート、黄砂砂を含む。外周黄茶色。内面黒色。外面縦ハケ+裏ヘラ縞。		
*	233	*	甕形部	4.5		8.6	チャートの砂粒、雲母細粒、赤色風化層砂粒を多く含む。褐色。内外周ナダ。		
*	234	*	甕形部	(4.0)		7.2	赤色風化層。チャートの砂粒を多く含む。褐色。外面縦ハケ。		
*	235	*	甕形部	(6.2)		12.9	黄砂粗粒、チャート、赤色風化層の粗・細粒砂を含む。褐色。内外周ナダ。底部内側割傷。		
34	236	SB 2 P256	十形砂小壺	9.0	1.5	6.0	チャート、黄砂粗粒を含む。黄茶色。底厚み厚り。		
35	337	SK14	高杯	22.5	(5.1)		チャートの粗・細粒、雲母を少し含む。褐色。外面口縁部縦ハケ+ナダ。体部縦ハケ。内底へラ縞。		
*	238	*	高杯	28.0	(5.0)		チャート、赤色風化層の粗・細粒砂を含む。薄茶色。外面口縁部縦ナダ。内面へラ縞巻。外底部厚みきか。内面縦ハケ。		
36	240	SD4	足取土鉢	11.0	6.5		灰色。精緻な胎土。		
*	241	SK3	土師器外	16.0	(2.3)		チャートの細粒砂を含む。白褐色。外面縦縞線ナダが認められる。		
40	242	笠内側	壺				チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。口唇部は面取り。口縁部をわずかに下方に拡張。内周口縁部に前面三角の浅い突帯を貼付。外面にヘラ縞状線帯を1条認める。外面わずかにヘラ縞。		
*	243	*	壺				チャート、赤色風化層を多く含む。黄茶色。2本の線帯を貼付し微窪をつまむ。		
*	244	*	壺				チャート、頁岩の粗粒砂を含む。褐色。太いヘラ縞状線帯を4条認める。外面縦方向ハケ。		
*	245	*	壺				チャートの縞を多く含む。淡茶色。ヘラ縞状線帯の間に瓦器による山形文を配す。		
*	246	*	壺				灰石を少量、右粗粒砂を多く含む。淡茶色。上下に2〜3本のヘラ縞状線帯を施し、その間に幅平な肩突帯を貼付。掘入孔の窪み状がある。		
*	247	*	壺				チャート、風化層の縞を多く含む。褐色。外面に多条の比喩。比喩部に刺突列状文を配す。		
*	248	*	壺	18.0	(2.5)		チャートの粗・細粒砂を含む。黄茶色。外面ヘラ縞状線帯を1条認める。内外周横ナダ。		
*	249	*	壺	11.5	(4.0)		チャートの粗粒砂、赤色風化層を含む。褐色。胴部に7本のヘラ縞状線帯を認める。		
*	250	*	壺	14.0	7.5		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。口唇部に4〜5mmの小孔をめぐらし、その間に小突帯を貼付。外面頸部へラによる多量の浅線と幅平な肩突帯を認めむように貼付する。外面縦ハケ。		
*	251	*	壺	14.7	(3.0)		チャートの小粒、粗粒砂を多く含む。淡茶色。外面縦ハケ。内面横ハケ+ナダ。		
*	252	*	壺	15.0	(6.5)		チャートの粗粒砂を多く含む。黄茶色。胴部にヘラ縞状線帯を5条認める。内外周ナダ。		
*	253	*	壺	12.9	(6.3)		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。胴部にヘラ縞状線帯を7条認める。外面ハケ調整。		
*	254	*	壺				チャートの粗粒砂を多く含む。淡黄色。外面7本のヘラ縞状線帯の下に刺突文。外面縦ハケ。内面横ハケ。		
*	255	*	壺	12.8	9.2		チャート、赤色風化層、灰石の粗・細粒砂を含む。褐色。口唇部深い横ナダ。内外周口縁部縦ハケ+ナダ。外面縦ハケ。内外周縦縞が認められる。		
*	256	*	壺	18.0	(6.0)		チャートの粗粒を多く含む。褐色。外面縦ハケ+ナダ。内周下りのヘラ。		
*	257	*	壺	(4.2)			チャートの粗粒を多く含む。薄茶色。外面に磨得直線文+4本の肩平な肩突帯+山形文を配す。外面縦ハケ。赤砂。	胴部に大きな灰泥	
*	258	*	壺	17.0	(10.0)		赤色風化層。チャートの砂粒を多く含む。黄茶色。外面腹面に5本の肩平な粘土帯。土師粘土と土師土質の粘土は異なる。粘土帯間には比喩が施されているが比喩が散しく単位不明。内面に縦縞に1本の肩平突帯と刺突列状文を貼す。		
*	259	*	壺				チャート、赤色風化層を多く含む。淡茶色。外面に5本の肩平突帯。肩目に横縞を認める。その下に4本のヘラ縞状線帯を貼す。内外周縦ハケ。内面横ハケ。		
*	260	*	壺	(6.7)			チャートの粗・細粒砂を含む。黄茶色。外面にヘラ縞状線帯を5条認める。比喩帯間に山形文を配す。外面赤砂。		
*	261	*	壺	(6.3)			チャートの粗粒を多く含む。黄茶色。外面に16本までヘラ縞状線帯。肩平な横付突帯1条を認める。		

遺物観察表 (土器) 8

Fig. No.	採回番号	出土地点	形種	度量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	器高	胴径	底径		
40	302	包舎跡	罎	22.0	(13.8)			チャート、頁岩の粗粒砂を含む。褐色。内面口縁部に断面三角の突起。外面に14条のヘラ状流線帯を施し、1条の肩平の帯帯を刻付。	
41	263	*	罎					チャート、赤色の細粒砂を多く含む。黄褐色。上腹部に黒褐色直線文・白斜線文。胴部中央に1条のヘラ状流線帯・肩平部直線文・肩平部直線文・肩平部直線文・肩平部直線文を配す。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	204	*	罎	18.8			(3.5)	チャート、他の粗粒砂を含む。褐色。口唇部、外面口縁部残ナデ、胴部に2条のヘラ状流線帯を施す。内面口縁部へラ磨き。内面口縁部に筋上帯を刻付。	
*	205	*	罎	23.5	(11.5)			チャート、他の粗粒砂を多く含む。褐色。外面胴部に15条のヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	206	*	罎					チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。上腹部に12条のヘラ状流線帯・胴部に若干部分がある。外面に黒斜線文・下平縁方向を基準とするヘラ状流線帯。内面に黒色物が付着する。	外面被熱赤炭。
*	207	*	罎					チャート、赤色の粗粒砂を含む。黒褐色。口唇部刻目。外面にヘラ状流線帯を3条まで施す。	外面僅ける。
*	208	*	罎					チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。口唇部刻目。外面にヘラ状流線帯を3条まで施す。	口唇部僅ける。
*	209	*	罎					チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。断面三角の突起を刻付し指環でつまむ。	
*	270	*	罎					チャートの粗粒砂を多く含む。灰黄色。口唇部ヘラ状流線帯による刻目。内外面に黒線横ナデ、以下腹ハケ。外面に帯下赤線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	271	*	罎					石灰、チャート、灰石の粗粒砂を含む。灰褐色。口唇部刻目。外面にヘラ状流線帯を3条まで施す。	口唇部僅ける。
*	272	*	罎					チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部刻目。外面にヘラ状流線帯を施す。	外面僅ける。
*	273	*	罎					チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。上腹部に爪状流線帯の連続に於いて3条の流線帯をつくり出している。外面上半は丁寧なナデ、下半は荒いなナデ。	
*	274	*	罎	17.4	(4.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部僅ける。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	外面被熱赤炭。
*	275	*	罎	16.6	(4.5)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面口縁部刻目ナデ。内外面ナデ。	
*	276	*	罎	18.0	(6.0)			チャートの粗粒砂を含む。黄褐色。口唇部刻目。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	277	*	罎					赤色風化層を含む。黄褐色。口唇部刻目。外面口縁部に黒斜線文。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	外面僅ける。
*	278	*	罎	19.0	5.0			チャート、風化層を含む。褐色。口唇部上下に刻目。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	
*	279	*	罎	19.7	(4.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。内外面ナデ。	
*	280	*	罎	19.0	(6.5)			チャート、風化層、他の粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部下に2条の小流線帯を刻付。内外面ナデ調製。	
*	281	*	罎	21.8	(8.0)			チャート、風化層の粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部上下に刻目。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	
*	282	*	罎	17.0	(5.0)			チャート、他の粗粒砂を含む。褐色。内外面に黒線横ナデ。外面に黒線横ナデ。外面に黒線横ナデ。	
*	283	*	罎					チャート、風化層の粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部上下に刻目。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	外面僅ける。
*	284	*	罎	20.8	(5.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。上腹部にヘラ状流線帯を6条施す。外面に黒線横ナデ。	
*	285	*	罎	21.6	(5.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部上下に刻目。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	
42	286	*	罎	22.4	7.0			チャートの粗粒砂を含む。褐色。口唇部上縁に刻目、下縁はつまみ出し。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	287	*	罎	12.7	(3.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部刻目。外面にナデ。	
*	288	*	罎	24.0	(4.3)			チャート、風化層の粗粒砂を多く含む。灰黄色。内外面にナデ調製。	
*	289	*	罎	22.6	(7.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面ナデ。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	外面僅ける。
*	290	*	罎					チャート、頁岩を多く含む。黄褐色。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデによる3条のヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	外面僅ける。
*	291	*	罎	23.0	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。口唇部が盛り。口唇部は下方につまみ出す。内外面ナデ。	
*	292	*	罎	26.0	(4.7)			チャート、他の粗粒砂を含む。褐色。口唇部下縁つまみ出し・横ナデ。外面にヘラ状流線帯を施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	293	*	罎					チャート、他の粗粒砂を含む。褐色。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデによる小突起を刻付し指環でつまむ。外面に黒線横ナデ、胴部以下に黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	外面僅ける。
*	294	*	罎	26.4	(4.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。口唇部刻目。外面に黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面に黒線横ナデを施す。	
*	295	*	罎		(9.7)			チャート、赤色風化層粗粒砂を含む。褐色。外面にヘラ状流線帯を18条まで施す。外面には黒線横ナデ・黒線横ナデを施す。外面にヘラ状流線帯を施す。	
*	296	*	罎	17.0	(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。口唇部ナデ。外面に黒線横ナデ。外面に黒線横ナデ。	

遺物観察表 (土器) 9

Fig. No.	標頭番号	出土地点	器種	法 量 (cm)				特 徴	備 考
				口徑	器高	胴径	高さ		
42	297	佐倉町	甕	34.4	6.1			チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。褐色。口唇部に沈着と上と下とに割目を有する。外蓋縁ハケ。内蓋縁ハケ。	
*	298	*	甕		11.0			チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。外面口縁部に6条のヘア襷状筋帯を認める。外蓋縁ハケ。内蓋口縁部縁ハケ。	外蓋縁ける。
*	299	*	甕	29.3	(10.9)			チャート、黒化燐を多く含む。茶褐色。口唇部は下層を2つみ出し数ナゲ。外面に5条のヘア襷状筋帯を認める。	
*	300	*	甕	14.0	(11.5)			チャート、赤色風化燐を多く含む。褐色。口唇部縁いぼナゲ。外蓋縁ハケ。	外蓋縁ける。
43	301	*	千づく	7.4	(4.5)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。内外蓋縁直縁。	
*	302	*	甕		(1.8)		17.0	チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。外蓋縁ハケナゲ。	
*	303	*	甕		(4.0)		28.0	チャートの粗粒砂を含む。褐色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	内蓋口縁部は限的に縁ける。
*	304	*	甕	7.4	(11.0)			チャート、他の粗粒砂を多く含む。外果褐色。内果淡褐色。大斗部水平。外蓋縁ハケ。内蓋縁ハケ。外面は変色。	内外蓋縁しく縁ける。
*	305	*	壺状器	(5.0)		7.0		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケ。	
*	306	*	壺状器	(4.0)		8.0		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。	外蓋縁ける。
*	307	*	壺状器	(3.5)		5.9		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。底部に微細な直線。	
*	308	*	壺状器	(5.5)		6.6		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。底部に微細な直線直線。	
*	309	*	壺状器	(4.0)		6.0		チャートの細・粗粒砂を多く含む。黄褐色。	底部に黒変あり。
*	310	*	壺状器	(5.0)		7.0		チャート、他の粗粒砂を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケ。	外蓋縁縁赤変。
*	311	*	壺状器	(6.0)		8.8		チャート、赤色風化燐を多く含む。薄茶色。内外蓋ナゲ。外蓋縁直縁直縁。	外蓋縁縁赤変。
*	312	*	壺状器	(3.9)		8.5		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。	外蓋縁ける。
*	313	*	壺状器	(4.4)		7.2		チャート、瓦質の粗粒砂を多く含む。褐色。外蓋縁ハケ。	
*	314	*	壺状器	(4.1)		6.4		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外蓋縁ハケ。	
*	315	*	壺状器	5.0		6.5		チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。外蓋縁ハケナゲ。	
*	316	*	壺状器	(5.0)		7.0		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	
*	317	*			5.0	8.0		チャート、他の粗粒砂を多く含む。外蓋縁褐色。内蓋黄褐色。外蓋縁ハケナゲ。内蓋ナゲ。	外蓋縁縁赤変。
*	318	*	壺状器	(3.0)		11.3		チャートの粗粒砂を含む。茶色。外蓋縁ハケ。内蓋縁ハケ。底部は接合部で割断。	
*	319	*	壺状器	(4.4)		8.0		チャートの細・粗粒砂を含む。外蓋縁褐色。内蓋縁褐色。外蓋縁ハケ。	
*	320	*	壺状器	(5.7)		10.0		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	
*	321	*	壺状器	(5.0)		9.0		チャートの粗粒砂を多く含む。外蓋縁茶色。内蓋縁茶色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	外蓋縁縁赤変。
*	322	*	壺状器	(6.7)		8.8		チャート、赤色風化燐の粗・細粒を多く含む。褐色。内外蓋縁ナゲ。	下胴部から底縁にかけて大きな黒変あり。
*	323	*	壺状器	(3.3)		9.4		チャートの粗粒砂を多く含む。外蓋縁褐色。内蓋縁茶色。	外面の一部縁縁赤変。
*	324	*	壺状器	(4.0)		10.0		チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケナゲ。外蓋縁。	
*	325	*	壺状器	(3.9)		9.4		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	下胴部に黒変あり。
*	326	*	壺状器	(5.0)		9.0		チャート、瓦質、他の粗粒砂を多く含む。薄茶色。内外蓋縁茶の裏れが強い。	
*	327	*	壺状器	(6.5)		10.7		チャート、赤色風化燐を多く含む。薄茶色。外蓋縁ハケ。内蓋ナゲ。	
*	328	*	壺状器	(6.5)		9.5		チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。褐色。内外蓋縁ナゲ。	
*	329	*	壺状器	(8.0)		9.5		チャート、赤色風化燐の粗粒砂を多く含む。褐色。内外蓋縁縁の裏れが強い。	
44	335	*	小坏	7.2	3.5			精製された粘土。褐色。底部赤変あり。	
*	336	*	坏	15.4	(4.4)			赤色風化燐の粗粒砂を多く含む。茶褐色。内外蓋縁ナゲ。	
*	337	*	流坏					長石、雲母の細粒。チャートの粗粒砂を多く含む。薄茶色。内外蓋縁ナゲ。	

遺物観察表（石器）

P. No.	埋蔵番号	出土地点	器種	規 格 (cm)				特 徴	備 考
				全長	全幅	全厚	重量		
10	69	TR1	石鏃	1.2	1.3	0.2	0.32g	オスロイト。凹溝式。先端部欠損。表面に大きな半割傷あり。	
16	110	ST1	叩石	11.0	8.1	3.3	495g	一方の上面の中央と側縁の一部に使用痕が認められる。	
18	130	ST2	石包丁	3.2	9.9	1.5	78.72g	頁岩。両側片り。一方の上面は研磨がみられるが、他方の上面は自然面や割傷面を多く残す。刃縁は磨耗している。	
*	121	*	石包丁	7.3	4.7	0.8	35.99g	一方の側縁に片り。刃部は鋭な割傷。背面は歪い割傷。	
27	200	SK1	石包丁	6.2	10.4	1.6	100.43g	頁岩。未製品での欠損。両主面は研磨され、中央部に両打痕が認められる。	
*	203	*	叩石	9.8	6.8	1.4	120.0g	砂岩。外縁部に使用痕が認められる。	
35	259	SK14	石包丁	5.4	8.5	1.0	61.17g	頁岩。両面に鋭い片りが認められる。刃部中央部にコーングロス磨き。	
44	330	包含層	石包丁	4.5	6.6	1.0	51.61g	結晶燧岩。両主面研磨。7～8mmの円孔を両側から穿孔。背面丸縁をもつ。刃部片り。	
*	331	*	石包丁	5.8	4.1	0.8	22.23g	頁岩。孔の一部が認められる。片り。背面は丸縁をもつ。	
*	332	*	大型輪刃石鏃	7.2	2.9	1.8	73.96g	結晶燧岩。両縁と刃部の一部が残る。背面は丁寧な研磨。	
*	333	*	輪状片刃石鏃	3.1	2.3	0.8	13.84g	結晶燧岩。	
*	334	*		17.9	11.8	8.2	370g	燧石。	

写真図版



調査区全景



TR 1 西壁



TR1 遺物検出状況



TR1 遺物検出状況



TR 3 南壁



TR 4 西壁



TR7 遺物検出状況



TR8 南壁



TR 9 遺構検出状況



TR 9 遺物検出状況 (SK12)



本調査北壁



本調査西壁



ST1 検出状況



ST1 完掘状況



ST 2 検出状況



ST 2 完掘状況



SD 2 検出状況



SD 2 完掘状況



SX 1 掘削状況



SX 1 完掘状況



調査区西側遺構全景



集石 3 遺構検出状況



調査区西側遺構 (SB 2)



SB 2・P256遺物出土状況



調査区北側遺構全景（東より撮影）



調査区北側遺構全景（西より撮影）



調査区南東側遺構全景



集石 2 検出状況



P50遺物検出状況



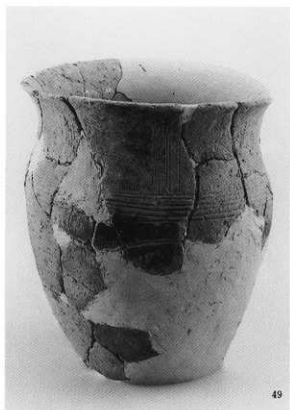
P21遺物検出状況



ST 2 床面遺物検出状況



調査風景



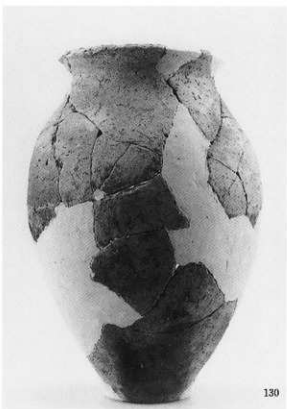
49



50

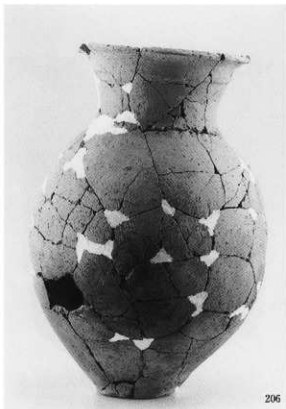
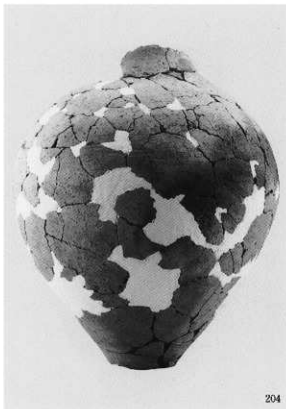
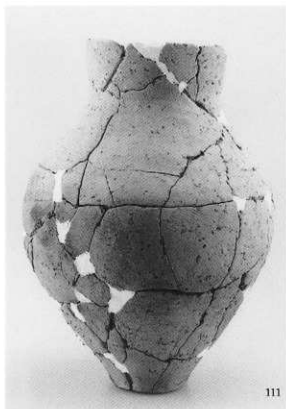


127



130

SK12(127・130), TR 1 (49・50) 出土遺物



ST 2 (111), SK12(129), P21(204), P50(206) 出土遺物



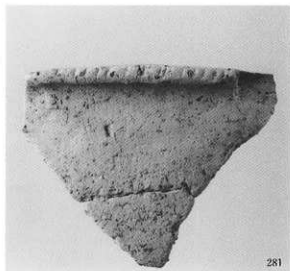
34



45



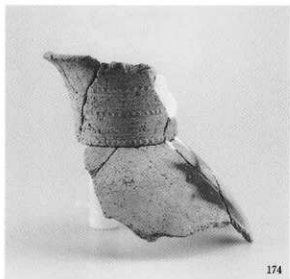
63



281

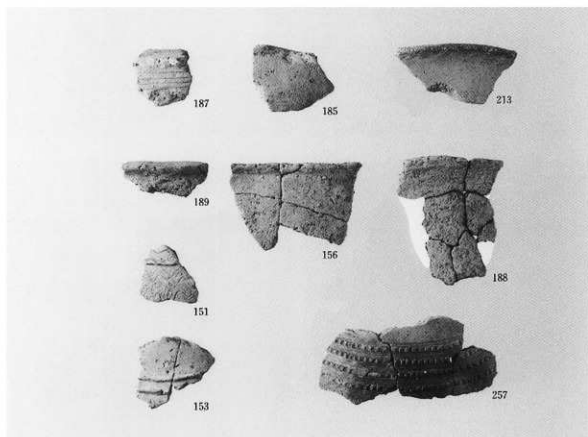
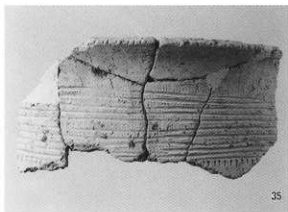
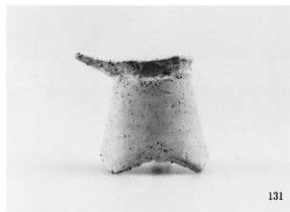
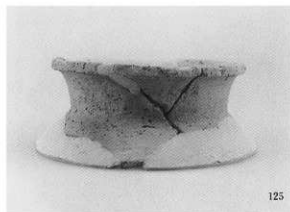


128



174

SK13(128), SX 1 (174), TR 1 (34 · 45 · 63), 包含層(281) 出土遺物



SK12(125 · 126 · 131), TR 1 (35), SD 2 (151 · 153), SX 1 (185 · 186 · 187 · 188 · 189),
P234(213), 包含層(257) 出土遺物



10



11



13



14

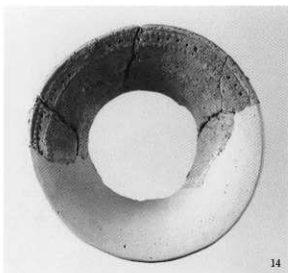
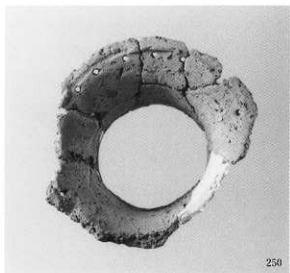


20



250

TR1 (10 · 11 · 13 · 14 · 20), 包含層(250) 出土遺物



TR 1 (14 · 17 · 18 · 23 · 89), 包含層(250) 出土遺物



38



39



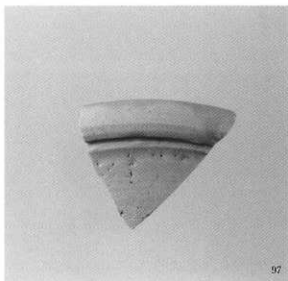
300



47



304

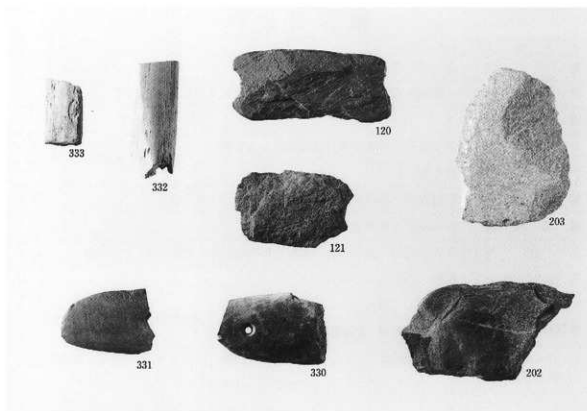


97

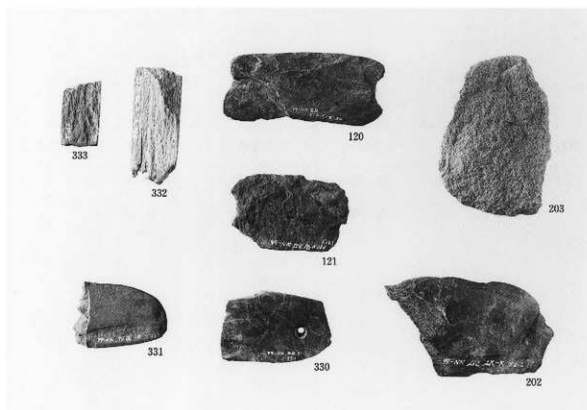
TR 1 (38 · 39 · 47), TR 8 (97), 包含層(300 · 304) 出土遺物



SB 2, P256(236), P50(205), TR 1 (66), TR 7 (94), TR 8 (96), TR 8-10(93),
TR 9 (95), 包含層(335) 出土遺物



ST 2 (120・121), SX 1 (202・203), 包含層(330・331・332・333) 出土遺物



同上裏面

報告書抄録

ふりがな	かみ おか い せき							
書名	上 岡 遺 跡							
副書名	上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	高知県野市町教育委員会発掘調査報告書							
シリーズ番号	第8集							
編著者名	更谷大介・溝渕真紀							
編集機関	高知県野市町教育委員会							
所在地	〒781-5292 高知県香美郡野市町西野2706 TEL0887-56-3910							
発行年月日	西暦 2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおかいせき 上岡遺跡	〒781-5234 こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 のいちちょう 野市町 かみおか 上岡	39324		33度 33分 19秒	133度 41分 15秒	平成8年 12月16日 } 平成9年 2月25日 平成11年 12月1日 } 平成12年 3月22日	1,100	処理場建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上岡遺跡	集落跡	弥生 古代		竪穴住居 掘立柱建物 土 坑 溝		弥生土器 土 師 器		

上 岡 遺 跡

-上岡地区農業集落排水緊急整備事業に伴う発掘調査報告書-

(野市町埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集)

2005年3月

発 行 高知県野市町教育委員会
高知県香美郡野市町西野2706
電話 (0887) 56-3910

印 刷 川北印刷株式会社